参考資料１

令和４（2022）年度

第４回　栃木県地域公共交通活性化協議会（書面協議）

基礎調査の実施状況について（R5.1月時点）

※前回資料と今回資料の別を各ページの右側上部に凡例で示してありますので参考にしてください。

※本資料は、前回協議会の資料をベースに調査が完了した内容を今回新たに追加で報告するものです。

【凡例】

12月協議会より再掲　→　前回資料を再度掲載するもの

新規　→　今回新たに資料を追加したもの

基礎調査の実施項目と実施状況①

✓ 基礎調査の実施項目と実施状況は次のとおり。前回協議会での意見等を踏まえ、調査項目を一部追加。（※赤字部分）

調査内容	使用資料	調査目的	アウトプット資料	該当頁
1 地域の現状分析				
(1)人口動向等	R2国勢調査 ・メッシュデータ（人口・世帯に関する編成）	・県内人口及び高齢化の推移と将来予測等の把握 ・公共交通ネットワーク（以下「公共交通NW」）の形成状況や移動実態との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用	・人口推移と将来予測 ・市町別の人口減少率 ・地域別の高齢化率の推移 ・市町別の高齢化率 ・市町別の高齢者に係る免許返納者数 等	【一部今回提示】 資料2 P4－6
(2)大規模施設等	全国大型小売店総覧	・日常生活における主要な移動目的地である施設の把握 ・公共交通NWの形成状況や移動実態との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用	・大型商業施設の立地状況	【前回提示】 資料2 P7
	観光客入込数・宿泊数推定調査結果	・県内外から利用の多い観光施設の立地状況の把握 ・公共交通NWの形成状況や移動実態との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用	・観光施設の立地状況	【前回提示】 資料2 P8
	・国土数値情報 ・栃木県公表データ 等	・日常生活における主要な移動目的地である施設の把握 ・交通結節点の拠点の把握 ・公共交通NWの形成状況や移動実態との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用	・行政施設の立地状況 ・教育施設の立地状況 ・救急病院の立地状況 ・主要な交通結節点	【今回提示】 資料2 P9－12
2 データ等による検証分析				
(1)公共交通の運行とネットワークの形成状況	・栃木県公表データ ・国土数値情報GISデータ ・タクシー協会データ	・主要な公共交通として鉄道、バス、タクシーのNW形成状況の把握 ・人口動向等や大規模施設等の立地状況など、地域の現状との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用	・栃木県の鉄道網 等 ・栃木県のバス路線網 等 ・タクシーの営業圏域 等 ・栃木県内の公共交通サービス圏域 等	【前回提示】 資料2 P13－16
	GTFS-JPデータ（標準的なバス情報フォーマット）	・バス停や運行経路等のバス情報をGIS上で可視化 ・例えば、高校生の通学にあたり十分な公共交通NWが構築されているか等を確認し、サービス水準見直しのための基礎資料として活用	GTFSデータを地図上に表示し、高校生の通学可能圏域を可視化	※作業中

基礎調査の実施項目と実施状況②

調査内容	使用資料	調査目的	アウトプット資料	該当頁
2 データ等による検証分析				
(2)多様な輸送資源の状況	スクールバス運行調査(高校/大学)	・地域の多様な輸送資源として、高校/大学のスクールバスの運行状況の把握 ・運行の有無やバスの保有状況、運行エリア等を確認することで、地域の移動手段の一つとしての活用可能性の検討に活用	・高校スクールバス運行調査結果 ・大学スクールバス運行調査結果	【一部今回提示】 資料2 P17－22
	レンタサイクル・シェアサイクルデータ	・地域の多様な輸送資源として、レンタサイクル・シェアサイクルの設置状況の把握 ・地域の移動手段の一つとしての活用可能性の検討に活用	・ﾚﾝﾀｻｲｸﾙ貸出店、ｼｪｱｻｲｸﾙﾎﾟｰﾄﾏｯﾌﾟ 等	【前回提示】 資料2 P23
	栃木県公表データ	・地域の多様な輸送資源として、自家用有償運送の運行状況の把握 ・地域の移動手段の一つとしての活用可能性の検討に活用	自家用有償運送の運行状況	【今回提示】 資料2 P24
(3)移動実態	R2国勢調査	・公共交通の利用の多い通勤・通学時における人の流動を把握 ・人口動向等や大規模施設等の立地状況など、地域の現状との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用	・通勤流動 ・通学流動	【前回提示】 資料2 P25
	・RESAS (地域経済分析ｼｽﾃﾑ) 「モバイル空間統計®」 ・栃木県公表データ	・休日や観光シーズンにおける県内外の人の流動を把握 ・地域外からの重要な収益源となる観光面における公共交通の利用促進の必要性を確認し、人口動向等や大規模施設等立地状況など、地域の現状との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用	・休日の人口流動(県内) ・休日の人口流動(県外) ・観光客入込数 ・観光シーズンにおける県外からの流入人口	【一部今回提示】 資料2 P26－29
	交通事業者の交通系ICカードデータ、交通系ICカード以外の乗降データ	・交通事業者の協力の下、交通系ICデータの提供を受け、路線バスや市町バスの利用状況を把握 ・サービス水準と利用実態の乖離等を確認し、人口動向等や大規模施設等の立地状況など、地域の現状との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用	交通系ICカードデータ分析結果まとめ ※一部作業中	【今回提示】 資料2 P30
	Webアンケート	・ビジネス目的による県外来訪者の公共交通の利用実態や課題の把握 ・地域外からの重要な収益源となるビジネス面における公共交通の利用促進に向けての検討に活用	Webアンケート調査結果	※作業中 調査概要一部更新 資料2 P31
(4)移動手段を確保する上での課題整理等	高校生アンケート	・公共交通の主要な利用者である高校生の公共交通の利用実態の把握 ・潜在的需要や公共交通の「利用、満足度、改善点」などを確認し、公共交通の利用促進や利便性向上のための検討に活用	高校生アンケート調査結果	【一部今回提示】 別添 参考資料1
	市町アンケート	・地域公共交通の一端を担う市町の取組や課題の把握 ・県内全域を対象とした地域公共交通政策の推進にあたり、県の役割の明確化や公共交通の維持・充実に向けた検討を行うために活用	市町アンケート調査結果	【一部今回提示】 別添 参考資料2

基礎調査の実施項目と実施状況③

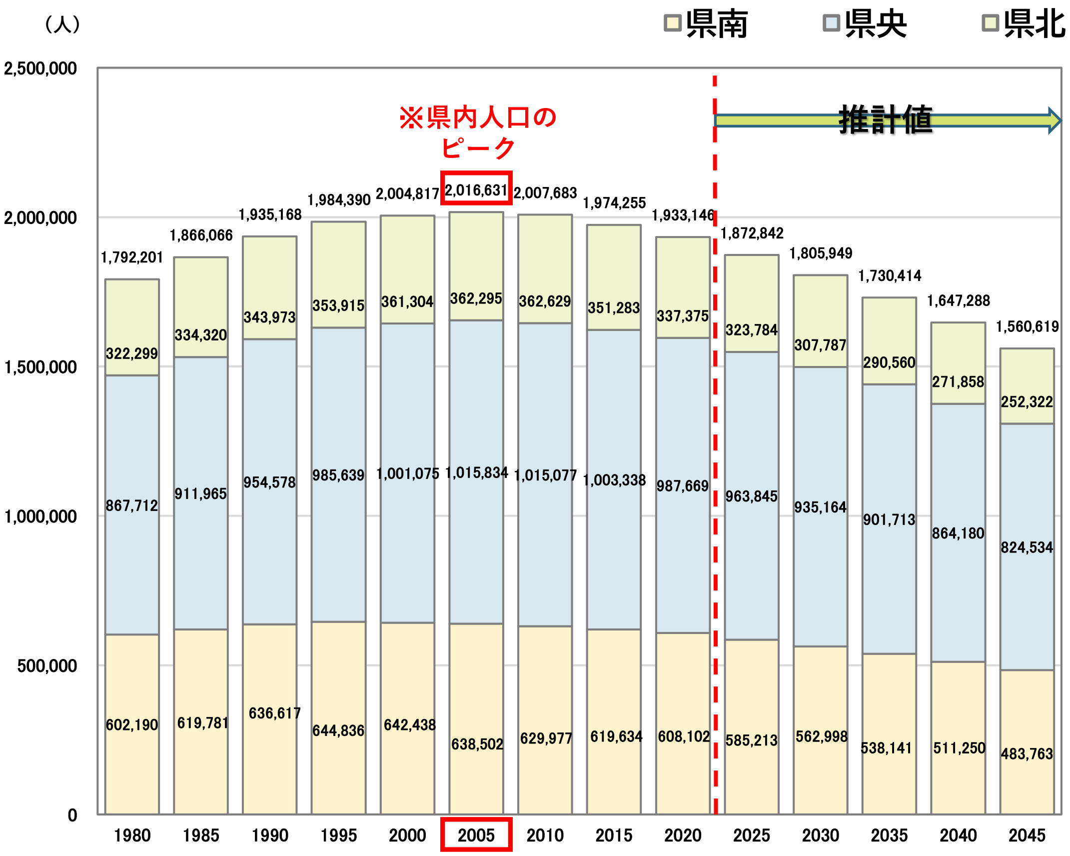
調査内容	使用資料	調査目的	アウトプット資料	該当頁
2　データ等による検証分析				
⑷移動手段を確保する上での課題整理等	交通事業者ヒアリング	・地域公共交通を支える交通事業者の現状や課題の把握 ・県内全域を対象とした地域公共交通政策の推進にあたり、県の役割の明確化や公共交通の維持・充実に向けた検討を行うために活用	・バス事業者ヒアリング ・タクシー協会ヒアリング ・タクシー業界の現状	**【前回提示】** 資料2 P32－36
	鉄道駅バス案内表示現況調査	・鉄道からバスへの乗り継ぎの観点で、地域ごとのバス案内表示の実態を把握 ・県内公共交通の案内表示の統一化による、公共交通の利便性向上のための検討に活用	県内鉄道駅のバス案内表示の現況調査結果	**【前回提示】** 資料2 P37－38
3　参考				
塾の送迎に関するデマンド交通の利用について	下野市既存調査データ	・下野市デマンド交通（おでかけ号）の利用実態 ・公共交通の維持確保のための参考資料として活用	塾の送迎に関するデマンド交通の利用	**【今回提示】** 資料2 P39－41

【調査目的】

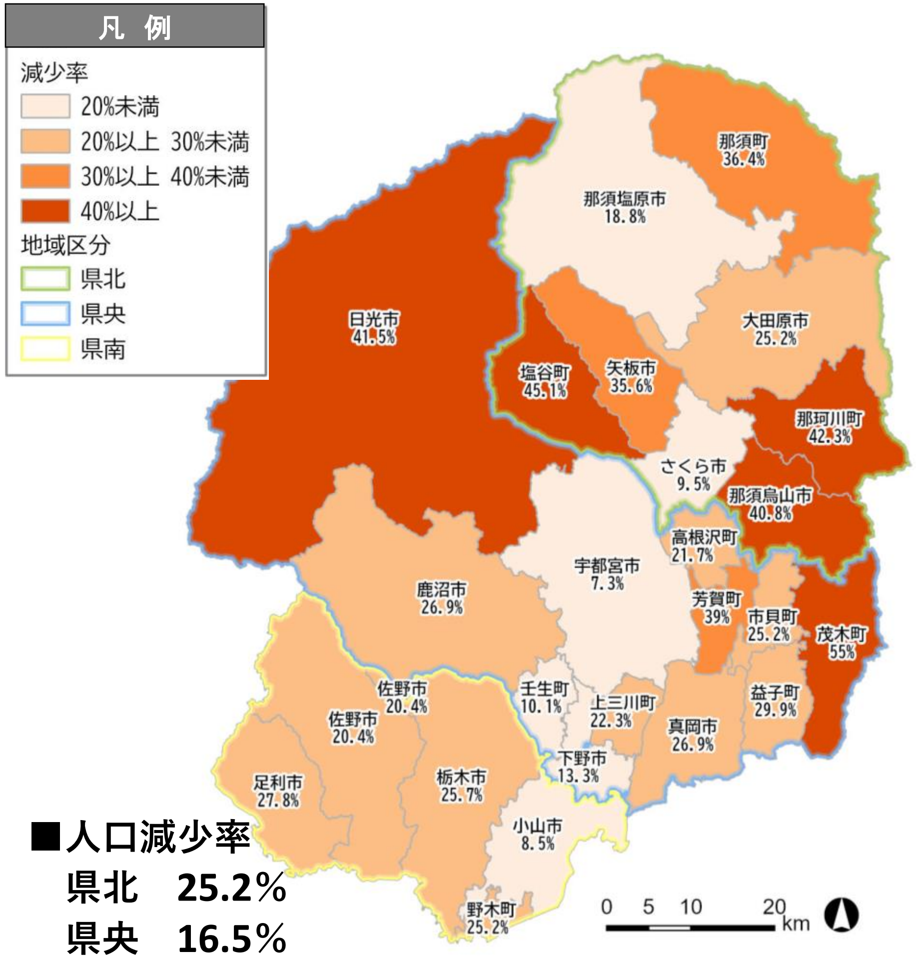
　県内人口の推移と人口減少率を把握し、公共交通ネットワーク(以下、本資料において「公共交通NW」)の形成状況や移動実態との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用する。

✓　2005年(2,016,631人)をピークに人口減少に転じ、以降人口減少が加速。地方部での人口減少が顕著。

栃木県の人口推移と将来予測



市町別の人口減少率



■人口減少率

県北　25.2%

県央　16.5%

県南　20.4%

減少率＝(1-(2045年人口/2020年人口))×100

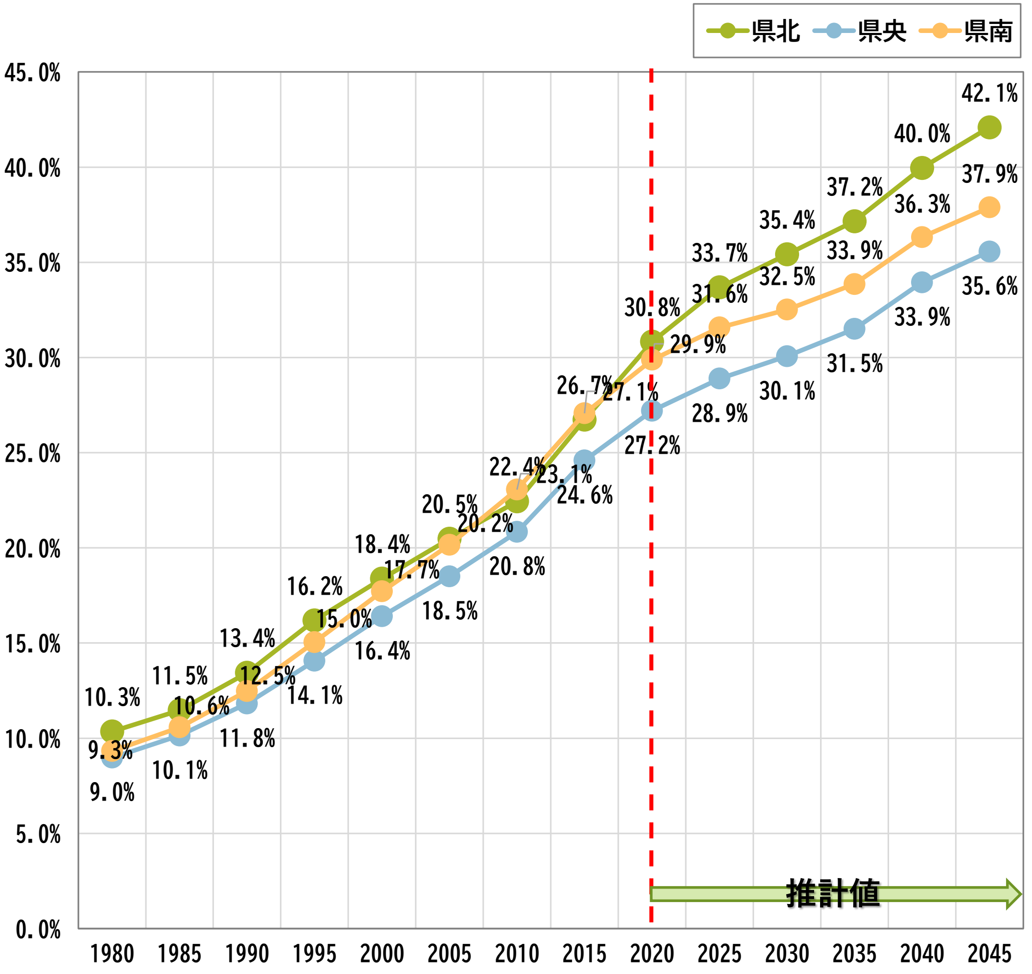
出典：国勢調査(2020年まで)、国立社会保障・人口問題研究所　平成30年推計(2025年以降)

1．地域の現状分析　(1)人口動向 ～県内の高齢化率～

【調査目的】
　運転免許返納後に公共交通を必要とする高齢者の分布状況を把握し、公共交通NWの形成状況や移動実態との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用する。

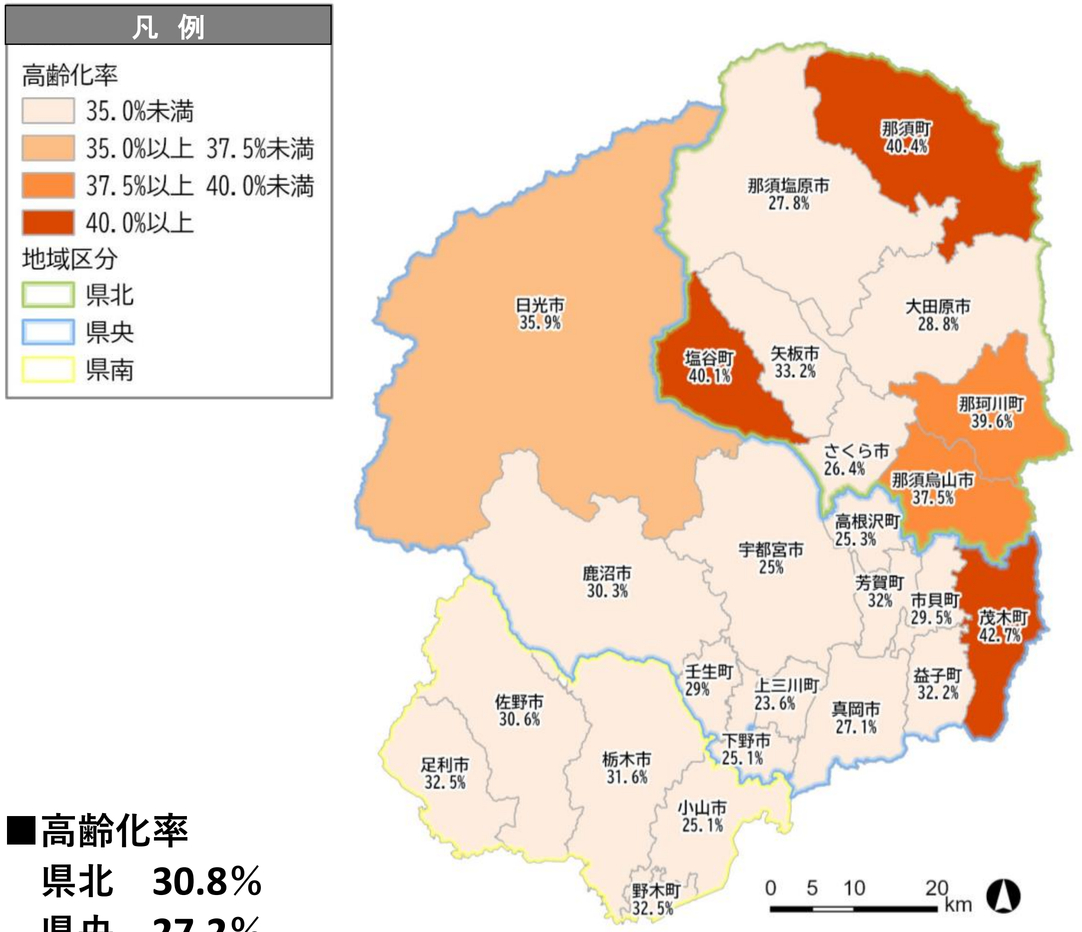
✓　全国と同様に栃木県でも高齢化が進行。地方部での高齢化の進行が顕著。

地域別の高齢化率の推移



出典：国勢調査（2020年まで）、国立社会保障・人口問題研究所　平成30年推計（2025年以降）

市町別の高齢化率



■高齢化率
県北　30.8%
県央　27.2%
県南　29.9%

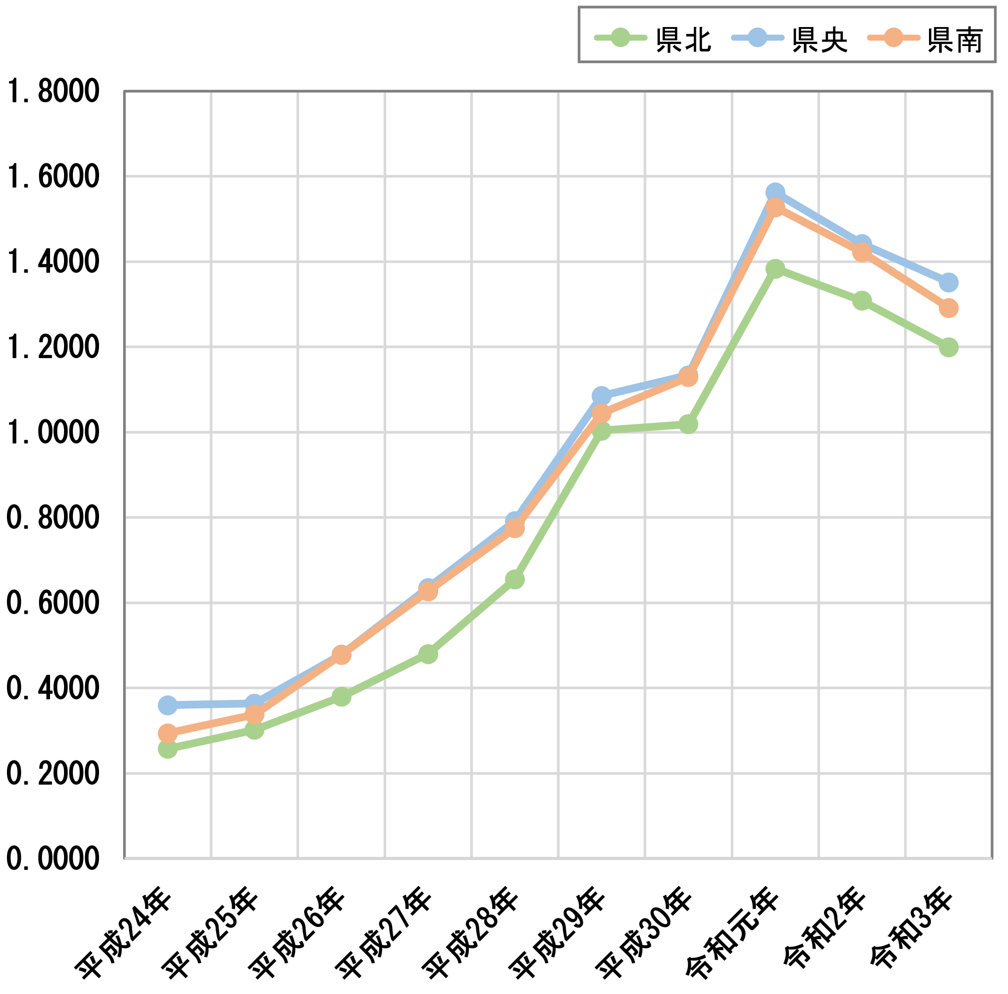
出典：国勢調査（2020年まで）、国立社会保障・人口問題研究所　平成30年推計（2025年以降）

【調査目的】

各市町の免許返納者数を高齢者人口（65歳以上）で除した値を評価し、栃木県内における免許返納の実態を把握する。

- ✓ 免許返納者数は全ての地域において令和元年まで増加し、その後減少傾向にある。
- ✓ 平成29年以降は、高齢者人口の1％以上が毎年免許を返納している。
- ✓ 宇都宮市を中心に県央は比較的免許返納者数が多い一方で、県北が少ない傾向となっている。

市町別の高齢者に係る免許返納者の割合の推移（R3年度）※



※各市町における免許返納者数を高齢者人口（65歳以上）で除した値

出典：令和3（2021年）栃木県交通年鑑

市町別の高齢者に係る免許返納者の割合（R3年度）

		令和3年		
		免許返納者数（人）	高齢者人口※（人）	免許返納者数/高齢者人口（％）
県央	宇都宮市	1,836	129,853	1.4139
県央	壬生町	143	11,443	1.2497
県央	鹿沼市	392	28,504	1.3752
県央	真岡市	317	21,215	1.4942
県央	益子町	68	7,041	0.9658
県央	芳賀町	63	4,782	1.3174
県央	下野市	201	14,912	1.3479
県央	上三川町	86	7,262	1.1842
県央	日光市	350	27,850	1.2567
県央	高根沢町	76	7,409	1.0258
県央	茂木町	61	5,073	1.2024
県央	市貝町	38	3,317	1.1456
	県央小計	3,631	268,661	1.3515
県北	那須塩原市	354	32,020	1.1056
県北	那須町	107	9,690	1.1042
県北	大田原市	265	20,726	1.2786
県北	さくら市	151	11,734	1.2869
県北	矢板市	136	10,334	1.3160
県北	塩谷町	48	4,157	1.1547
県北	那須烏山市	111	9,331	1.1896
県北	那珂川町	76	6,029	1.2606
	県北小計	1,248	104,021	1.1998
県南	小山市	592	41,781	1.4169
県南	野木町	119	8,095	1.4700
県南	足利市	553	47,023	1.1760
県南	栃木市	656	49,179	1.3339
県南	佐野市	427	35,621	1.1987
	県南小計	2,347	181,699	1.2917
	計	7,226	554,381	1.3034

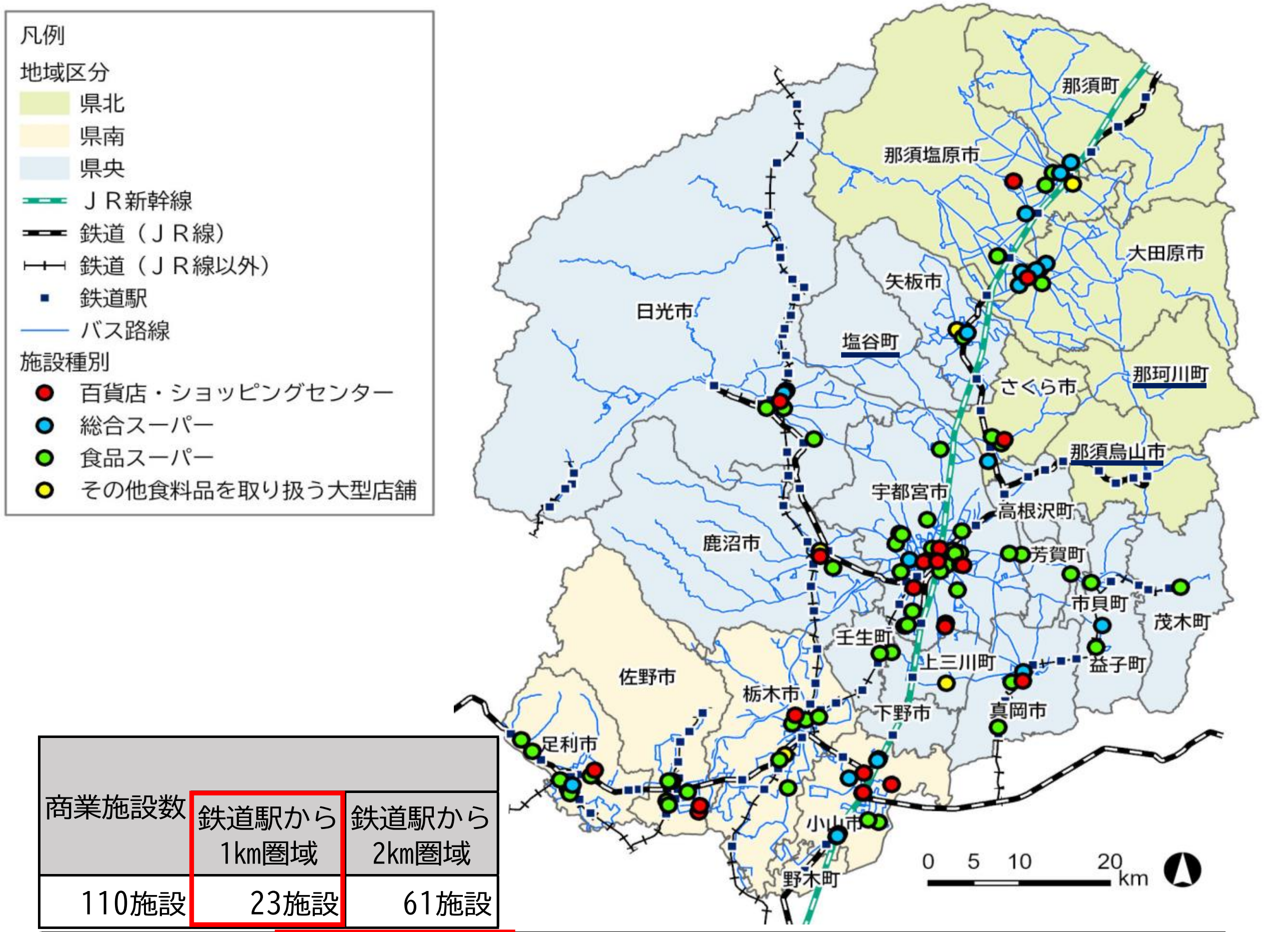
※65歳以上人口（令和2年国勢調査）

出典：令和3（2021年）栃木県交通年鑑

【調査目的】
　日常生活における移動の主要な目的地となる施設として大型商業施設立地状況を把握し、公共交通NWの形成状況や移動実態との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用する。

- ✓ 大型商業施設は県内各地域に分布。その多くは幹線道路沿に立地。（110施設のうち72施設：65.4%）
- ✓ 鉄道駅から1km圏域の立地は23施設にとどまる。（110施設のうち23施設：20.9%）

大型商業施設の立地状況



商業施設数	鉄道駅から1km圏域	鉄道駅から2km圏域
110施設	23施設	61施設

ターミナル型 駅前・駅近辺型	幹線道路沿型	住宅地域型	商店街・商業地型	その他 不明
10施設	72施設	17施設	3施設	8施設

※店舗面積3,000㎡以上かつ上記種別に分類される大型小売店舗を対象とした

	市町村名	百貨店・ショッピングセンター	総合スーパー	食品スーパー	その他食料品を取り扱う大型店舗
県北	大田原市	1	3	3	0
	那須塩原市	1	3	3	2
	さくら市	1	1	2	0
	那須烏山市	0	0	0	0
	那須町	0	1	0	0
	那珂川町	0	0	0	0
県央	宇都宮市	7	3	17	3
	鹿沼市	1	0	1	1
	日光市	1	1	4	0
	真岡市	1	1	2	0
	矢板市	0	1	1	1
	下野市	0	0	0	0
	上三川町	0	0	0	1
	益子町	0	1	1	0
	茂木町	0	0	1	0
	市貝町	0	0	1	0
	芳賀町	0	0	1	0
	壬生町	0	0	2	0
	塩谷町	0	0	0	0
	高根沢町	0	0	0	0
県南	足利市	1	1	6	0
	栃木市	1	0	5	1
	佐野市	2	0	5	1
	小山市	4	3	5	0
	野木町	0	0	0	0
栃木県計		21	19	60	10

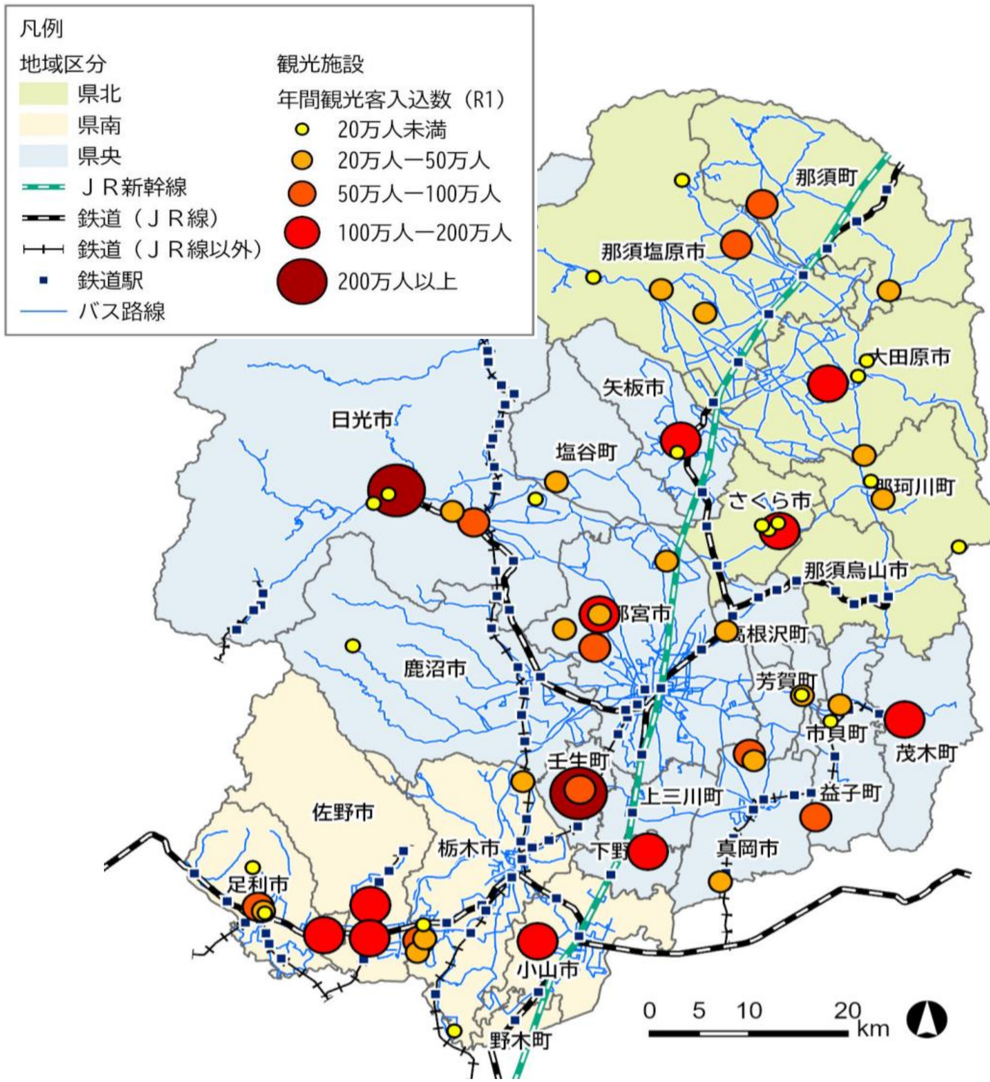
出典：全国大型小売店総覧　2022年版

【調査目的】

　県内外からの利用が多い観光施設の立地状況を把握し、公共交通NWの形成状況や移動実態との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用する。

✓　観光入込客数が多い観光施設は県内各地域に広く分布。社寺や道の駅などで観光入込客数が多い。

観光施設の立地状況



種別	観光施設	観光客入込数
日帰り公営温泉・入浴施設	地域交流館 ほたるの里梵天の湯	38万人/年
	真岡井頭温泉	34万人/年
	ろまんちっく村 ろまんちっく温泉館	29万人/年
	喜連川温泉第１温泉浴場「もとゆ」	19万人/年
	城の湯温泉センター	18万人/年
	道の駅はが「ロマンの湯」	16万人/年
	日光和の代温泉「やしおの湯」	16万人/年
	黒羽温泉「五峰の湯」	13万人/年
	日光市温泉保養センター「かたくりの湯」	12万人/年
	まほろばの湯「湯親館」	10万人/年
	板室健康の’ゆ’グリーングリーン	9万人/年
	喜連川温泉第２温泉浴場「露天風呂」	8万人/年
	市貝温泉健康保養センター「ゆったりランド市貝」	8万人/年
	かんぽの宿 栃木喜連川温泉	8万人/年
	前日光 つつじの湯交流館	7万人/年
	塩原温泉「湯っ歩の里」	4万人/年
大規模公園・複合公園	織姫公園	93万人/年
	とちぎわんぱく公園	82万人/年
	井頭公園	73万人/年
	みかも山公園	52万人/年
	日光だいや川公園	43万人/年
	那須野が原公園	26万人/年
	鬼怒グリーンパーク	25万人/年
	宇都宮市森林公園	23万人/年
	渡良瀬遊水地	20万人/年
	日光田母沢 御用邸公園	11万人/年
	黒羽城址公園	10万人/年
自然・動植物園等	あしかがフラワーパーク	150万人/年
	とちぎ花センター	31万人/年
	なかがわ水遊園	29万人/年
	万葉自然公園 かたくりの里	4万人/年

種別	観光施設	観光客入込数
道の駅	道の駅 みぶ	216万人/年
	道の駅 しもつけ	180万人/年
	道の駅 もてぎ	180万人/年
	道の駅 思川	171万人/年
	道の駅 うつのみや ろまんちっく村	139万人/年
	道の駅 どまんなか たぬま	139万人/年
	道の駅 やいた	124万人/年
	道の駅 那須与一の郷	115万人/年
	道の駅 きつれがわ	103万人/年
	道の駅 日光街道 ニコニコ本陣	90万人/年
	道の駅 ましこ	83万人/年
	道の駅 明治の森・黒磯	66万人/年
	道の駅 那須高原友愛の森	64万人/年
	道の駅 みかも	46万人/年
	道の駅 湧水の郷しおや	43万人/年
	道の駅 湯の香しおばら（アグリパル塩原）	41万人/年
	道の駅 にしかた	39万人/年
	道の駅 東山道伊王野	37万人/年
	道の駅 友遊はが	36万人/年
	道の駅 サシバの里 いちかい	34万人/年
	道の駅 ばとう	34万人/年
	道の駅 にのみや	22万人/年
社寺・史跡等	二社一寺	299万人/年
	佐野厄よけ大師	125万人/年
	大谷寺・大谷資料館・平和観音	76万人/年
	ばん阿寺	41万人/年
	史跡足利学校	15万人/年
	鷲子山上神社	12万人/年
	行道山浄因寺	7万人/年

※新型コロナウイルス流行の影響を受けない令和元(2019)年の数値を用いた

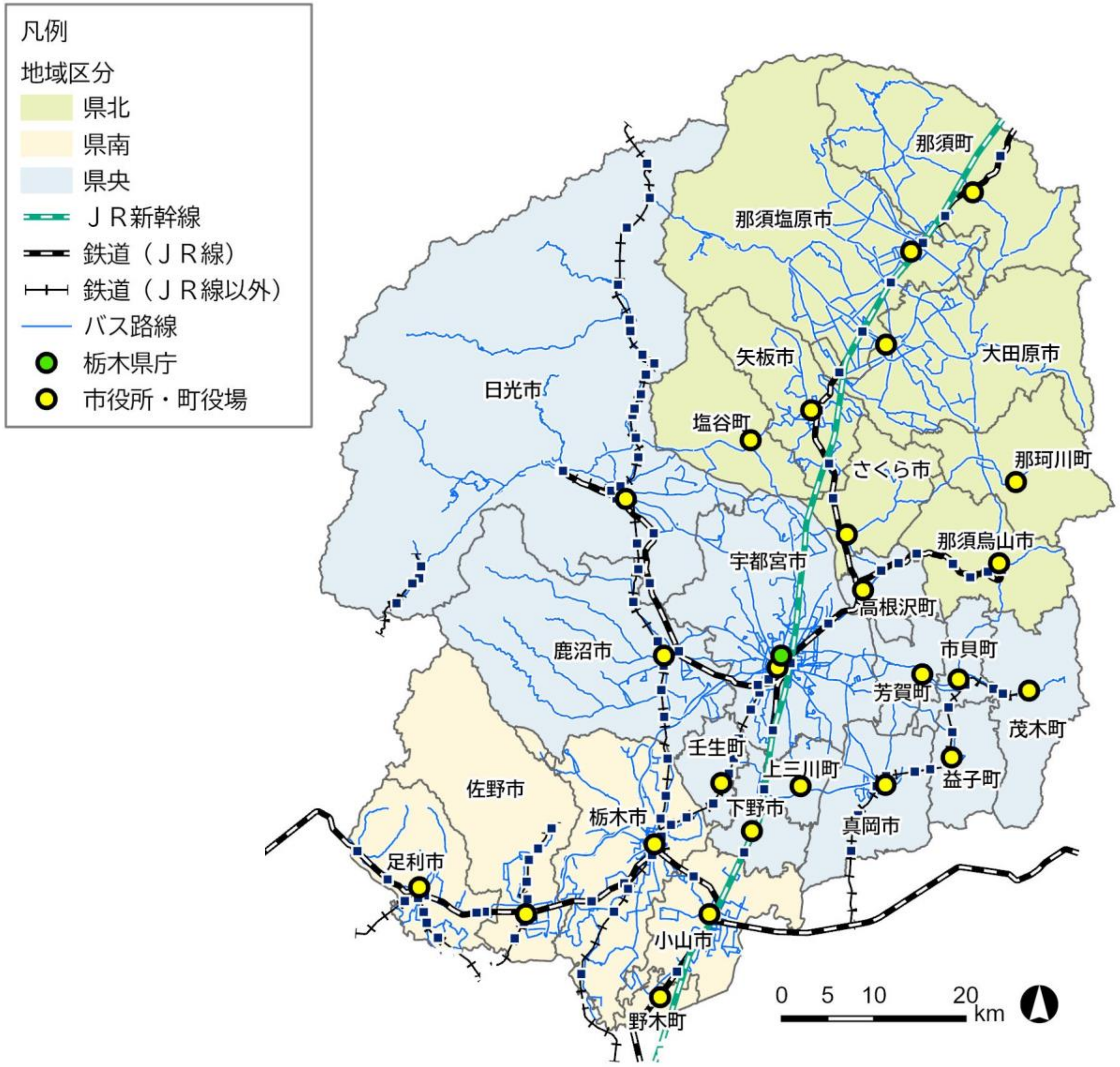
※栃木県栃木県観光客入込数･宿泊数推定調査の対象施設とした

出典：令和元(2019)年栃木県観光客入込数･宿泊数推定調査結果

1．地域の現状分析　(2)大規模施設等 ～行政施設～

- ✓ 県庁・市役所・町役場へは多くの市町でバスアクセスが可能である。
- ✓ 壬生町役場は、半径1km以内の鉄道駅及び半径300m以内のバス停がない。

行政施設の立地状況



出典：国土数値情報　市区町村役場(平成26年)を基に作成

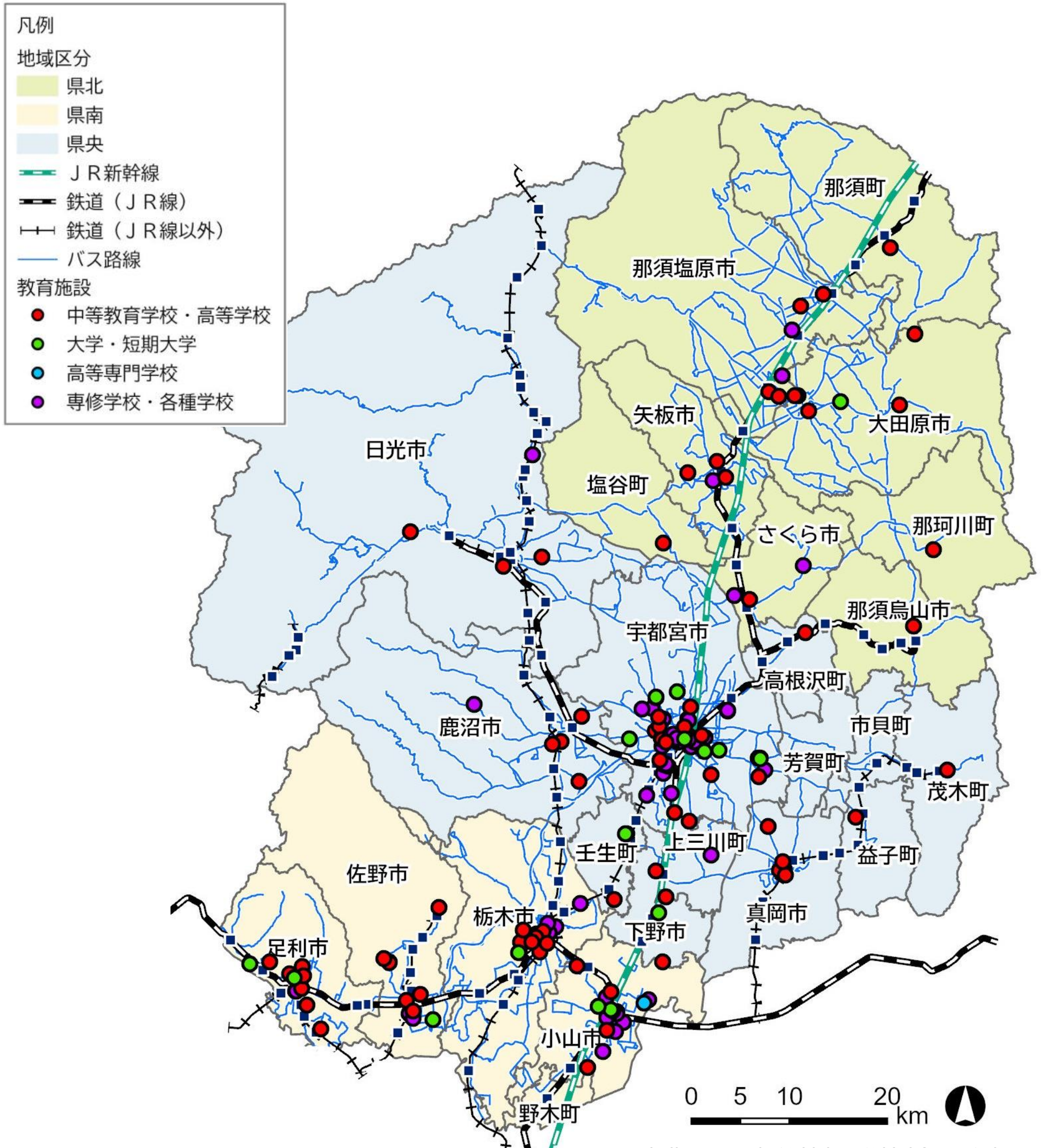
地域	行政施設名	半径1km以内鉄道駅の有無	半径300m以内バス停の有無
県北	大田原市役所		○
	矢板市役所	○	○
	那須塩原市役所		○
	さくら市役所	○	○
	那須烏山市役所	○	○
	塩谷町役場		○
	那須町役場	○	○
	那珂川町役場		○
県央	栃木県庁	○	○
	宇都宮市役所	○	○
	鹿沼市役所		○
	日光市役所	○	○
	真岡市役所	○	○
	下野市役所	○	○
	上三川町役場		○
	益子町役場	○	
	茂木町役場	○	
	市貝町役場	○	○
	芳賀町役場		○
	壬生町役場		
	高根沢町役場	○	○
県南	足利市役所		○
	栃木市役所		○
	佐野市役所	○	○
	小山市役所	○	○
	野木町役場	○	

1．地域の現状分析　(2)大規模施設等 ～教育施設～

新規

- ✓ 宇都宮市に多く集積しているほか、県南の都市（栃木市・小山市）でも高等学校の集積がみられる。
- ✓ 一方で、市貝町・芳賀町・野木町では高等学校の立地がない。

教育施設の立地状況



出典：国土数値情報 学校（令和3年）

地域	市町	中等教育学校	高等学校	大学	短期大学	高等専門学校	各種学校	専修学校
県北	大田原市	－	4	1	－	－	－	1
	矢板市	－	3	－	－	－	－	1
	那須塩原市	－	4	－	－	－	－	2
	さくら市	－	1	－	－	－	1	1
	那須烏山市	－	1	－	－	－	－	－
	塩谷町	－	1	－	－	－	－	－
	那須町	－	2	－	－	－	－	－
	那珂川町	－	1	－	－	－	－	－
県央	宇都宮市	－	15	6	3	－	7	32
	鹿沼市	－	4	－	－	－	1	－
	日光市	－	3	－	－	－	－	1
	真岡市	－	4	－	－	－	1	－
	下野市	－	1	1	－	－	－	－
	上三川町	－	1	－	－	－	－	1
	益子町	－	1	－	－	－	－	－
	茂木町	－	1	－	－	－	－	－
	市貝町	－	－	－	－	－	－	－
	芳賀町	－	－	－	－	－	－	－
	壬生町	－	1	1	－	－	－	1
	高根沢町	－	1	－	－	－	－	－
県南	足利市	－	8	1	1	－	1	3
	栃木市	－	8	－	1	－	2	4
	佐野市	1	6	－	1	－	2	－
	小山市	－	5	2	－	1	2	8
	野木町	－	－	－	－	－	－	－

- ✓ 二次救急病院は、救急医療圏ごとに分散して立地。三次救急病院は、県央に集中しているが、県北・県南にも1施設ずつ立地。
- ✓ ほとんどの施設でバス停が300m以内にあるが、下野市の2施設は、半径1km以内の鉄道駅及び半径300m以内のバス停がない。

救急病院の立地状況

出典：栃木県ホームページ（救命救急センター一覧、二次救急一覧）

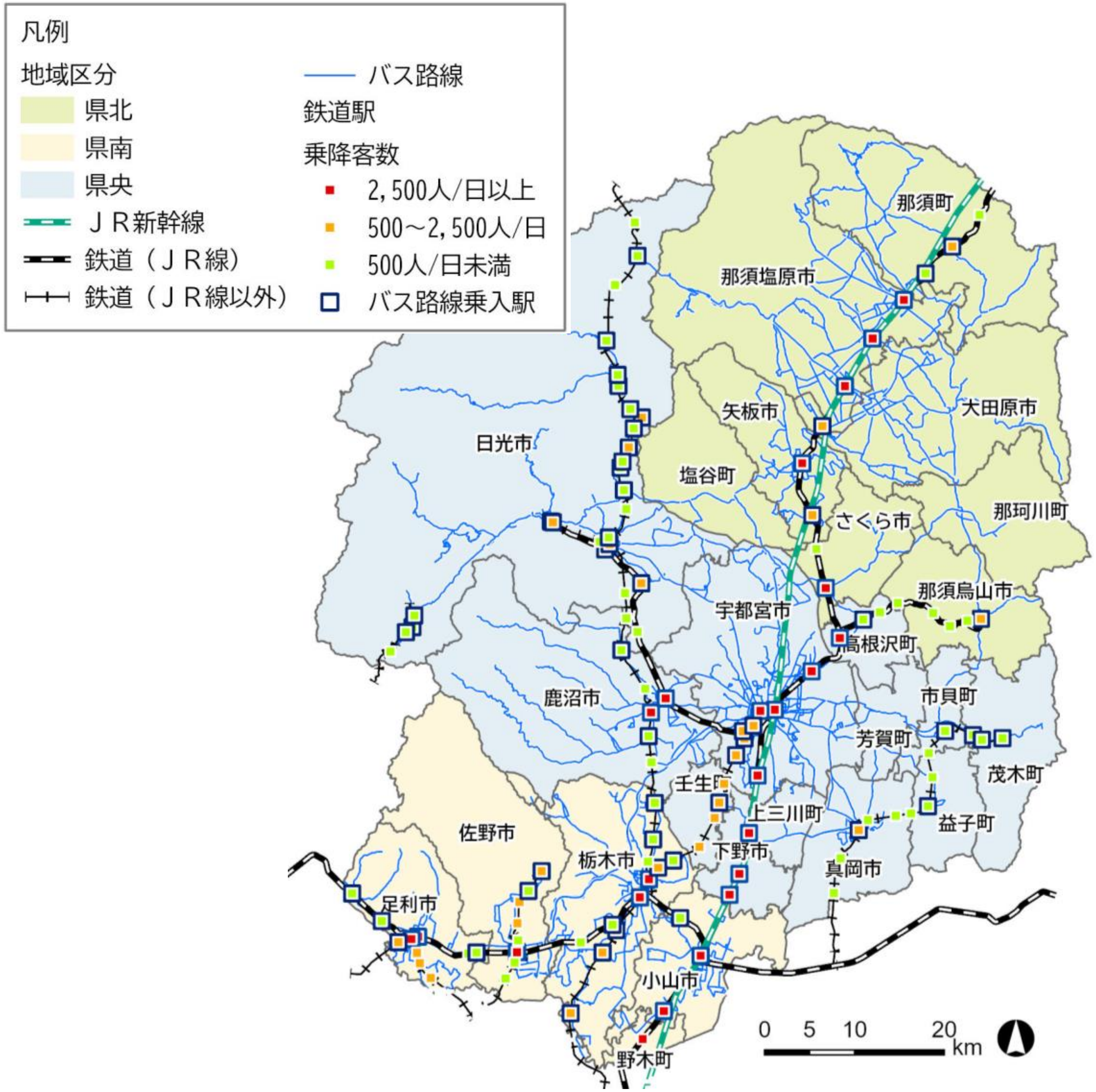
地域	病院名	三次救急	二次救急	救急医療圏	半径1km以内鉄道駅の有無	半径300m以内バス停の有無
県北	那須赤十字病院	○	○	那須		○
	菅間記念病院		○	那須	○	○
	那須中央病院		○	那須		○
	国際医療福祉大学病院		○	那須		○
	国際医療福祉大学塩谷病院		○	塩谷		○
	黒須病院		○	塩谷	○	○
	那須南病院		○	南那須		○
県央	独立行政法人国立病院機構（NHO）栃木医療センター	○				○
	独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）うつのみや病院	○				○
	宇都宮記念病院	○			○	○
	独立行政法人国立病院機構（NHO）宇都宮病院	○			○	○
	上都賀総合病院		○	鹿沼	○	○
	御殿山病院		○	鹿沼		○
	今市病院		○	日光	○	○
	獨協医科大学日光医療センター		○	日光	○	○
	日光市民病院		○	日光		○
	芳賀赤十字病院		○	芳賀	○	○
	石橋総合病院		○	小山		
	小金井中央病院		○	小山		
	済生会宇都宮病院	○				○
	獨協医科大学病院	○	○	栃木	○	○
	自治医科大学附属病院	○	○	小山	○	○
県南	足利赤十字病院	○	○	両毛		○
	西方病院		○	鹿沼	○	○
	とちぎメディカルセンターしもつが		○	栃木	○	○
	新小山市民病院		○	小山		○
	光南病院		○	小山		○
	佐野厚生総合病院		○	両毛	○	○

1．地域の現状分析　(2)大規模施設等 ～主要な交通結節点～

新規

- ✓ 乗降客数の多い鉄道駅のほとんどでバスとの接続があり、また、各鉄道路線にバスと接続する駅がある。
- ✓ 宇都宮駅以南の宇都宮線を中心に乗降客数が多い。

主要な交通結節点



バス路線乗入駅

東日本旅客鉄道	
東北線	間々田駅
	小山駅
	小金井駅
	自治医大駅
	石橋駅
	雀宮駅
	宇都宮駅
	岡本駅
	宝積寺駅
	氏家駅
	片岡駅
	矢板駅
	野崎駅
	西那須野駅
	那須塩原駅
	黒磯駅
	高久駅
	黒田原駅
	足利駅
	富田駅
両毛線	佐野駅
	大平下駅
	栃木駅
	思川駅
	小山駅
日光線	宇都宮駅
	鶴田駅
	鹿沼駅
	下野大沢駅
	今市駅
	日光駅
烏山線	宝積寺駅
	下野花岡駅
	烏山駅

東武鉄道	
宇都宮線	新栃木駅
	野州平川駅
	野州大塚駅
	おもちゃのまち駅
	西川田駅
	江曽島駅
	南宇都宮駅
	東武宇都宮駅
日光線	藤岡駅
	静和駅
	新大平下駅
	栃木駅
	新栃木駅
	家中駅
	東武金崎駅
	樅山駅
	新鹿沼駅
	板荷駅
	下今市駅
	東武日光駅
伊勢崎線	足利市駅
	野州山辺駅
佐野線	佐野駅
	多田駅
	葛生駅
鬼怒川線	下今市駅
	大谷向駅
	新高徳駅
	小佐越駅
	東武ワールドスクウェア駅
	鬼怒川温泉駅
	鬼怒川公園駅
	新藤原駅

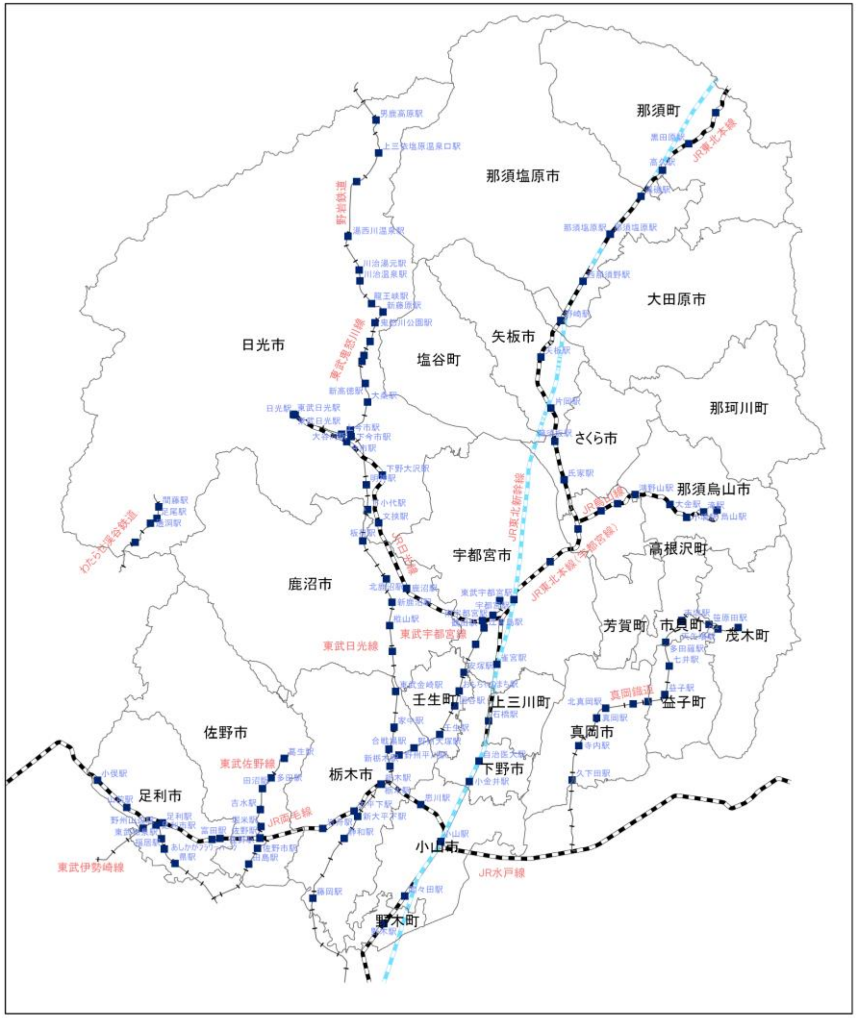
真岡鐵道	
真岡線	真岡駅
	益子駅
	市塙駅
	笹原田駅
	天矢場駅
	茂木駅
野岩鉄道	
会津鬼怒川線	新藤原駅
	龍王峡駅
	川治温泉駅
	川治湯元駅
	湯西川温泉駅
	上三依塩原温
わたらせ渓谷鐵道	
わたらせ渓谷線	通洞駅
	足尾駅
	間藤駅

※バス路線乗入駅は鉄道駅から半径150m以内にバス停がある駅とした

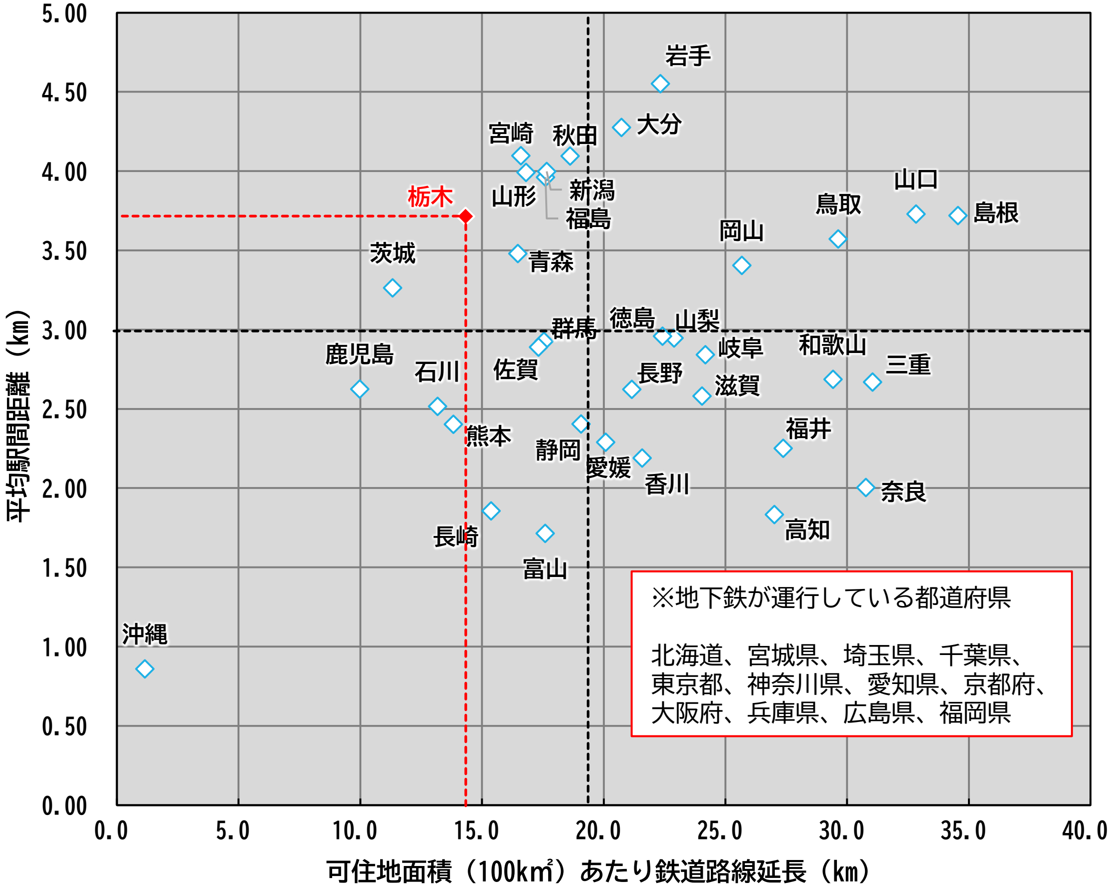
出典：国土数値情報　駅別乗降客数(令和3年度)

【調査目的】
　主要な公共交通機関である鉄道の網形成状況を把握し、人口動向等や大規模施設等の立地状況など、地域の現状との 関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用する。
✓ 鉄道網を骨格とした広域移動は概ね確保。
✓ 一方、可住地面積あたりの鉄道路線延長・平均駅間距離はともに全国平均を下回る。

栃木県の鉄道網



鉄道路線延長と平均駅間距離(都道府県別)※地下鉄が運行している都道府県を除く

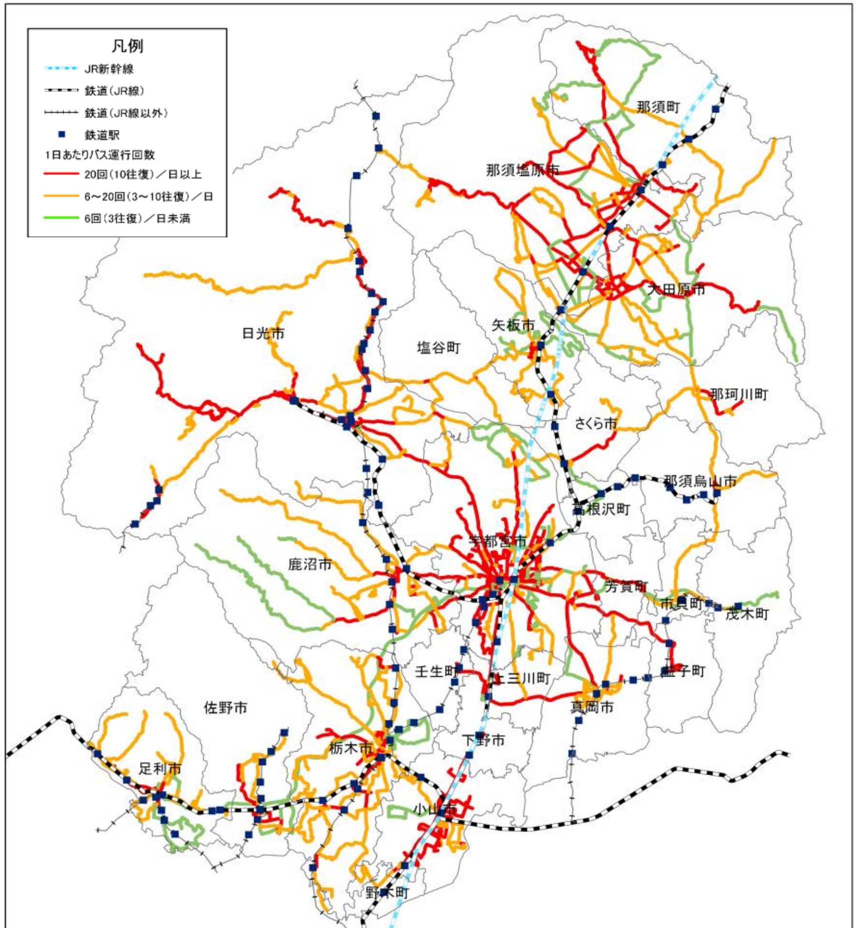


※可住地面積：総面積から森林・原野・湖沼の面積を除いた面積
資料：地域交通年報（H25）
：「政府統計の総合窓口（e-Stat）」-社会・人口統計体系（2020）
出典：栃木県「とちぎの公共交通」

【調査目的】
主要な公共交通機関であるバスの網形成状況を把握し、人口動向等や大規模施設等の立地状況など、地域の現状との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用する。

- ✓ 中心都市（宇都宮市）、中心市（栃木市・小山市等）周辺では路線が確保。
- ✓ 郊外部では鉄道網とつながる路線が運行されているものの運行便数が少ない。また、運行のない地域も存在。
- ✓ 可住地面積あたりバス走行キロ・バス走行キロ当たり輸送人員はともに全国平均を下回る。

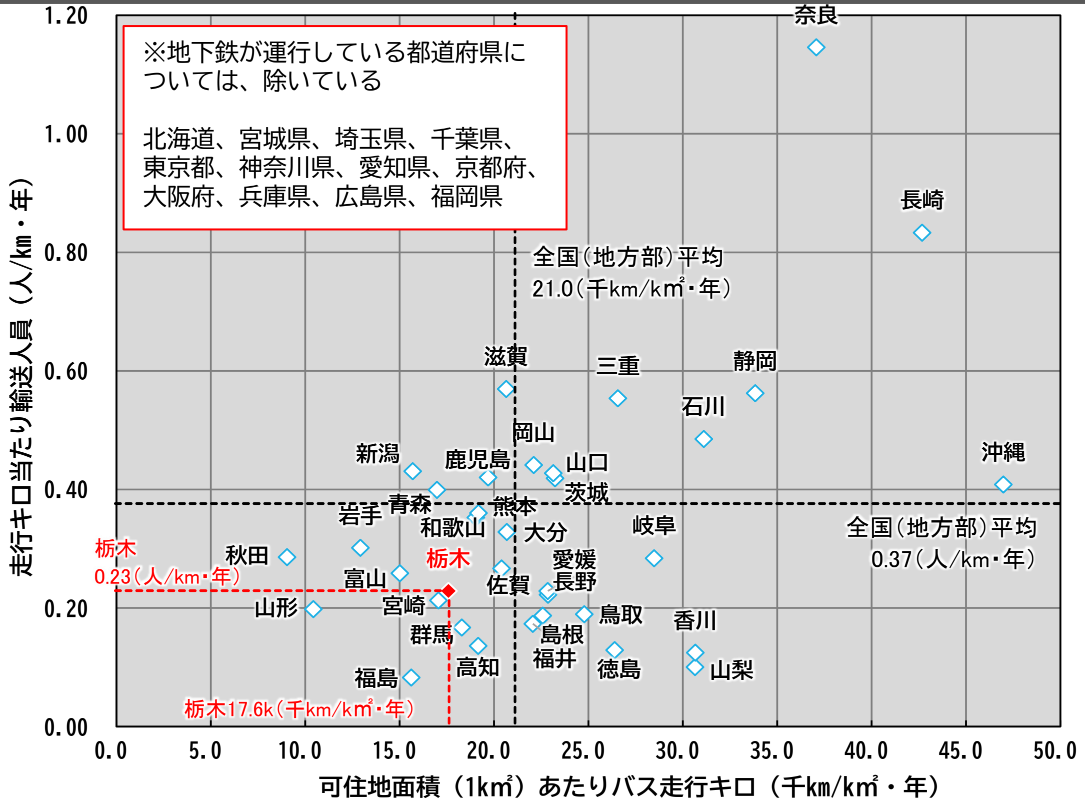
栃木県のバス路線網



資料：一般乗合旅客自動車運送事業輸送実績報告書（R2年度）
令和２年度市町村バス運行実績（市町村照会）をもとに作成

[参考]バス運行回数の目安
6回未満：朝・昼・夕に各1往復程度のサービスも確保されていないレベル

乗合バスの走行キロと輸送人員（都道府県別）



※バス走行キロ：燃料別走行キロのバス（軽油利用）の集計
※可住地面積：総面積から森林・原野・湖沼の面積を除いた面積

資料：地域交通年報（H25）
：「政府統計の総合窓口（e-Stat)」-社会・人口統計体系（2020）
：自動車輸送統計調査（2020）
：自動車燃料消費量調査（2020）

出典：栃木県「とちぎの公共交通」

【調査目的】

主要な公共交通機関であるタクシーの営業圏域等を把握し、人口動向等や大規模施設等の立地状況など、地域の現状との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用する。

- ✓ 営業圏域別の運転者数は、宇都宮交通圏域に運転者数全体の約5割が集中。
- ✓ また人口１万人あたりの運転者数は、日光交通圏が最も多い。

タクシーの営業圏域と事業者数・運転者数

日光交通圏
人口　77,661人
事業者数　10事業所
運転者数　101人
人口1万人あたり運転者数　13.0人
観光客入込数10万人あたり運転者数　0.9人

宇都宮交通圏
人口　742,577人
事業者数　31事業所
運転者数　863人
人口1万人あたり運転者数　11.6人
観光客入込数10万人あたり運転者数　3.6人

県南交通圏
人口　608,102人
事業者数　26事業所
運転者数　452人
人口1万人あたり運転者数　7.4人
観光客入込数10万人あたり運転者数　2.0人

塩那交通圏
人口　366,604人
事業者数　17事業所
運転者数　259人
人口1万人あたり運転者数　7.1人
観光客入込数10万人あたり運転者数　1.1人

芳賀・真岡交通圏
人口　138,202人
事業者数　8事業所
運転者数　60人
人口1万人あたり運転者数　4.3人
観光客入込数10万人あたり運転者数　0.6人

※全国の運転者数の減少率は　【約25.8%】
※栃木県の運転者数の減少率は【約21.3%】

観光客入込数10万人あたり運転者数は、
「令和元(2019) 年栃木県観光客入込数･宿泊数推定調査結果」を基に算出

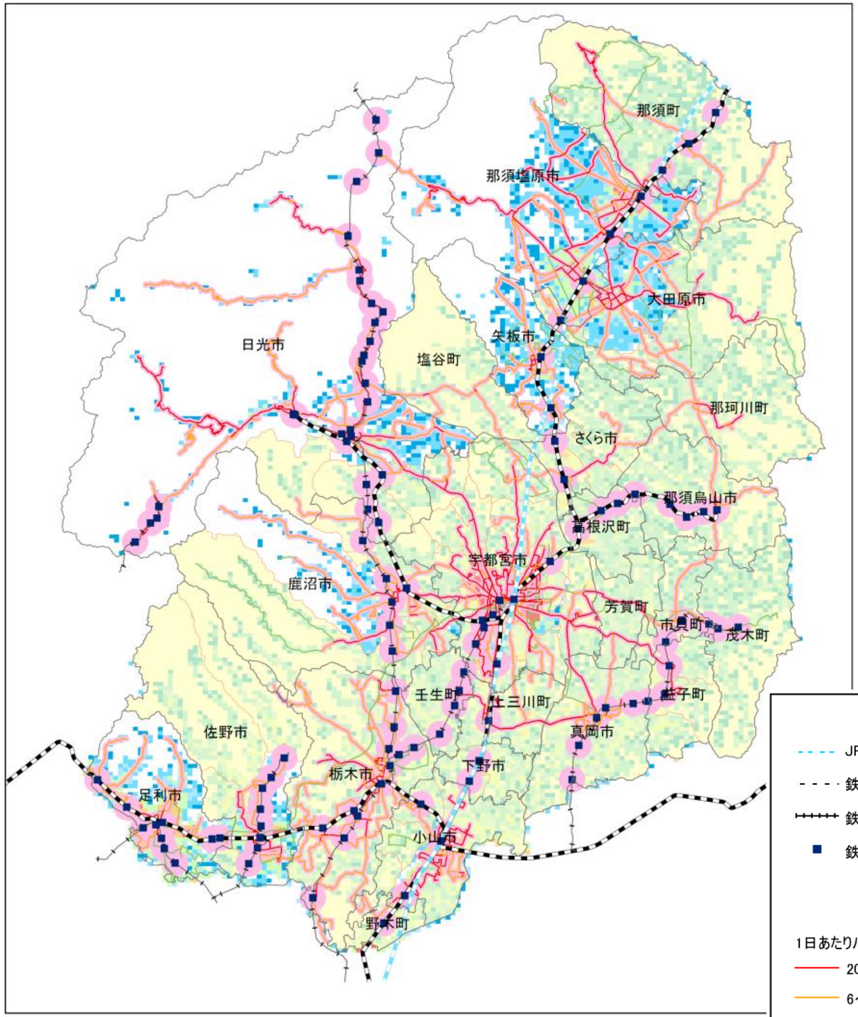
出典：栃木県タクシー協会ヒアリング（2022年時点）
TAXI TODAY in Japan 2022 タクシーがつなぐ人の輪　地域の輪減少率は、平成27年から令和3年までの7年間のデータで算出

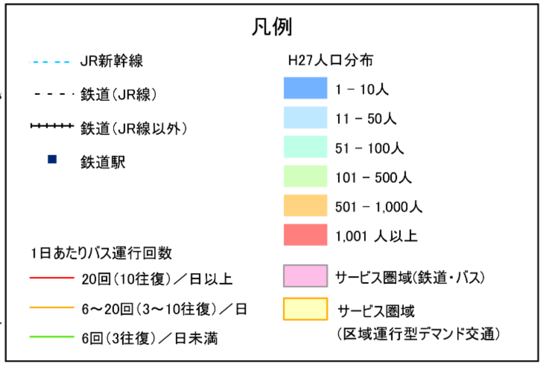
12月協議会より再掲

【調査目的】
鉄道・バスの公共交通サービス圏域を把握し、人口動向等や大規模施設等の立地状況など、地域の現状との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用する。

✓ 栃木県内の公共交通サービス圏域における人口カバー状況は92.3%。（うち31.9%が市町のバス・デマンド交通）

栃木県内の公共交通サービス圏域





公共交通サービスの人口カバー状況 （県全域）

			全系統	運行回数6回以上	運行回数20回以上
総人口			1,974,255		
	鉄道・バスサービス圏域人口		1,861,777	1,822,912	1,724,098
	総人口に対する割合	R2	94.3%	92.3%	87.3%
		(H20)	(74.8%)	(71.0%)	(63.4%)
デマンド区域運行を除く					
	鉄道・バスサービス圏域人口		1,476,026	1,437,161	1,219,601
	総人口に対する割合	R2	74.8%	72.8%	61.8%
		(H20)	(74.3%)	(70.4%)	(62.8%)
市町バス・デマンド区域運行を除く					
	鉄道・バスサービス圏域人口		1,213,062	1,192,293	1,115,733
	総人口に対する割合	R2	61.4%	60.4%	56.5%
用途地域内人口			1,127,900		
	鉄道・バスサービス圏域人口		1,105,669	1,085,387	1,032,704
	総人口に対する割合	R2	98.0%	96.2%	91.6%
		(H20)	(88.5%)	(86.9%)	(81.9%)

[参考]バス運行回数の目安
6回未満：朝・昼・夕に各1往復程度のサービスも確保されていないレベル

※ 一般乗合旅客自動車運送事業輸送実績報告書（R2年度）、令和2年度市町バス運行実績(市町村照会)をもとに作成

※ 鉄道駅・バス停のサービス圏域

- 鉄道については、第二回宇都宮都市圏パーソントリップ調査等における鉄道駅までの平均アクセス時間が5～15分（徒歩・自転車）となっていること等を考慮し、鉄道駅圏域は半径1.5kmに設定した。
- バスについては、道路の移動円滑化ガイドライン等で歩行者が気軽に歩ける距離が200～400mとされていること等を考慮し、バス路線から半径300m圏域として設定した。

※ 用途地域内人口は、H27人口メッシュ(500m)を用い、用途地域内に重心が含まれるメッシュ人口の合計。また、公共交通サービスの人口カバー率が100%の市町の用途地域内人口は、「人口メッシュから算出した用途地域内人口の総数」と「都市計画基礎調査の用途地域内人口」からの差の係数を「都市計画基礎調査の用途地域内人口」に乗じて算出。

出典：栃木県「とちぎの公共交通」

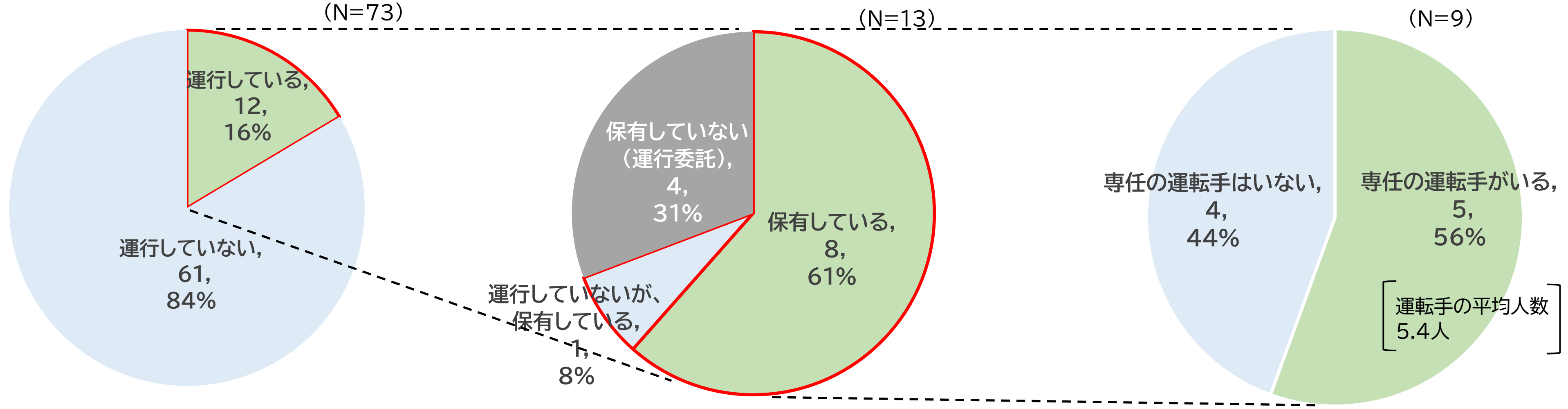
２．データ等による検証分析　⑵多様な輸送資源 ～高校スクールバス～

12月協議会より再掲

【調査目的】
地域の多様な輸送資源として、スクールバスの運行状況を把握し、地域の移動手段の一つとしての活用可能性を検討するために活用する。

- ✓ 全日制73校のうち12校（約16%）がスクールバスを運行。そのうち8校は、自校でスクールバスを保有。
- ✓ 全ての高校でスクールバス運行に係る補助金は受けておらず、運行経費の負担や、運転手の確保などが課題。

スクールバスの運行の有無　**スクールバスの保有の有無**　**専任の運転手の有無**

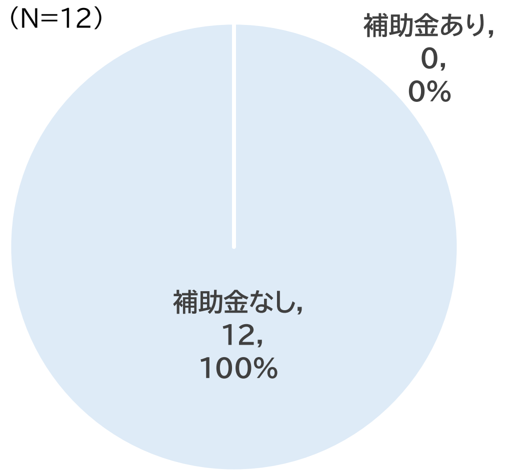


保有スクールバスの内訳

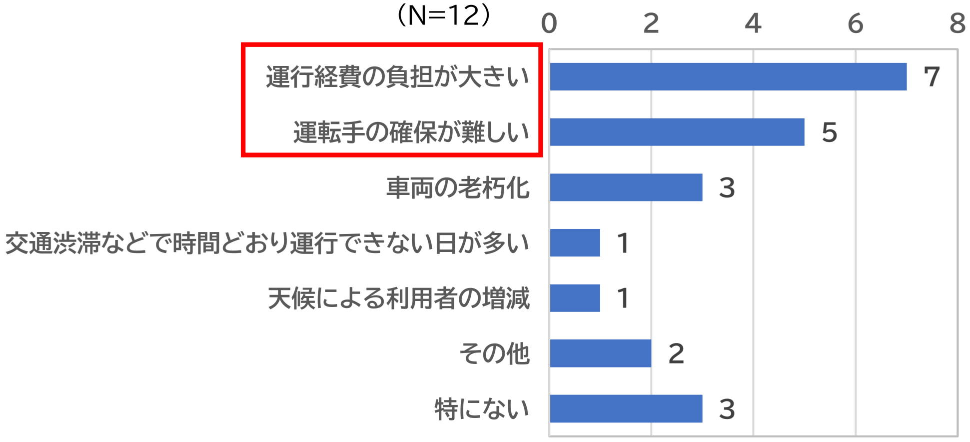
車種	保有校数（校）	平均保有台数（台）
大型バス	4	3.5
中型バス	5	4.4
小型バス	4	1.8
その他（ハイエースなど）	2	1.5

※1校で複数の車種を保有している場合もあるため、上表の合計は、全保有校数（8校）と一致しない。

運行に係る補助金の有無



スクールバスの運行にあたり課題と感じること



※その他･･･ 路線の再編、事故や苦情等の対応 など

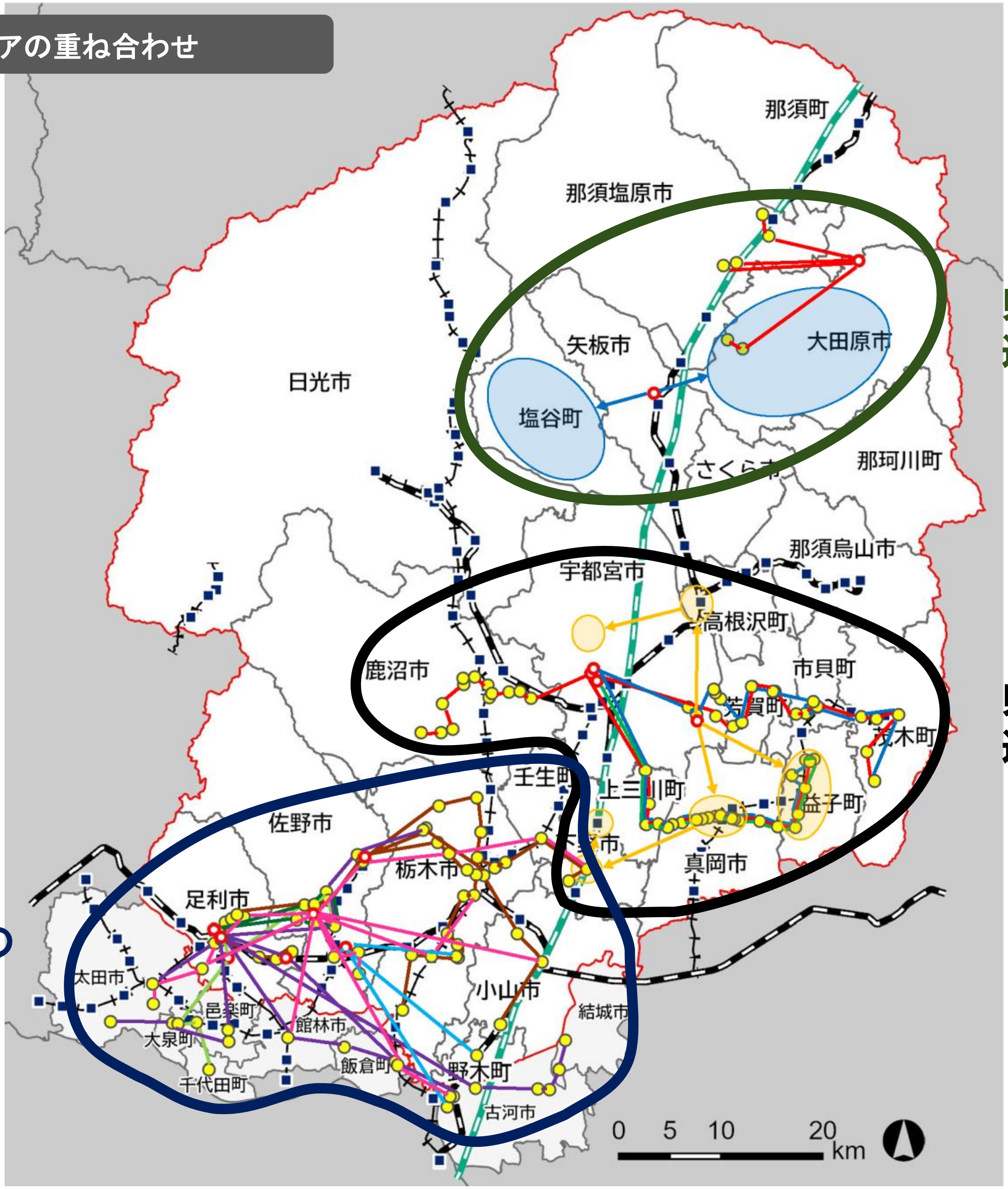
２．データ等による検証分析　⑵多様な輸送資源 ～高校スクールバス～

12月協議会より再掲

- ✓ 県北地域・県央地域・県南地域の高校で、運行エリアは概ね棲み分け。
- ✓ 県央地域の高校からは真岡・益子方面、県南地域の高校からは県南各都市のほか群馬県や茨城県までが運行　エリア。

各高校のスクールバス運行路線・エリアの重ね合わせ

凡例
- スクールバスのある高等学校
- スクールバス停留所
- ＪＲ新幹線
- 鉄道（ＪＲ線）
- 鉄道（ＪＲ線以外）
- 鉄道駅



県北の高校（2校）の運行エリア

県央の高校（4校）の運行エリア

県南の高校（6校）の運行エリア

【調査目的】
地域の多様な輸送手段の活用可能性を検討するための基礎資料として、栃木県内に立地する大学のうちスクールバスを運行している校舎に対してアンケート調査を実施し、利用者数や運行に係る課題、運行ルート等を抽出し、学生の利便性向上や公共交通としての移動手段となりうるか検討するために活用する。

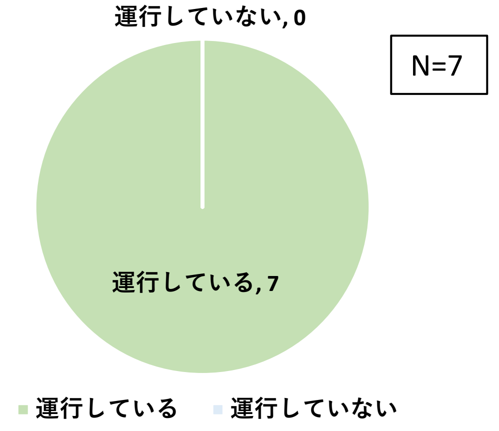
- ✓ 大学スクールバスを運行している6大学7キャンパスの集計・分析を実施
- ✓ 回収数（6大学7キャンパス）、回収率（100%）

質問内容は以下のとおり。

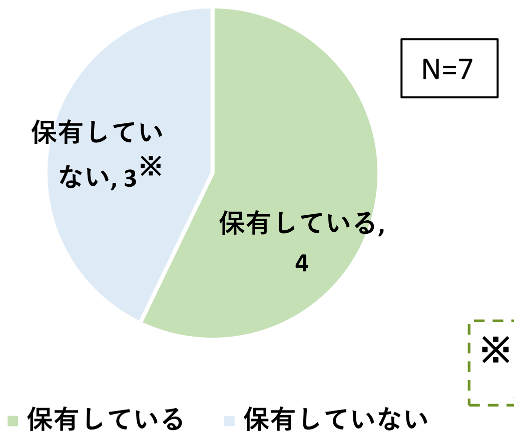
分類	内容
問1	大学名とキャンパス名を教えてください。
問2	スクールバスの「運行の有無」、「保有の有無」を教えてください。
問3	保有するスクールバスの車両の概要を教えてください。
問4	スクールバスの「運行コース」、「時刻表」、「利用料」、「補助金の有無」を教えてください。
問5	スクールバス運行の「コース別、登下校別の利用者数」を教えてください。
問6	スクールバス運行に関する課題などがあれば教えてください。

- ✓ 栃木県内に立地する大学では7校舎（6大学）がスクールバスを運行しており、そのうち4校舎でスクールバスを保有している。
- ✓ バスの種別においては、大型バス・中型バスを保有している大学が多い。スクールバスを保有せず、民間バス事業者にスクールバスの運行を委託しているケースもある。

大学スクールバスの運行について

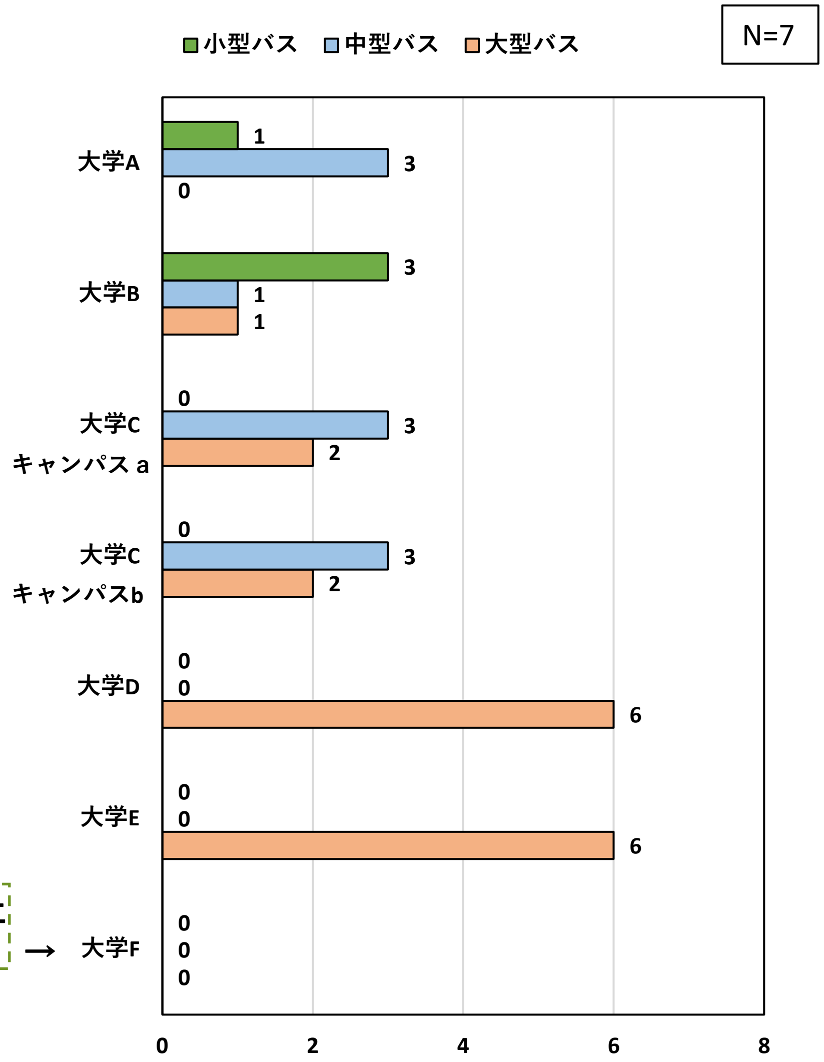


大学スクールバスの保有について



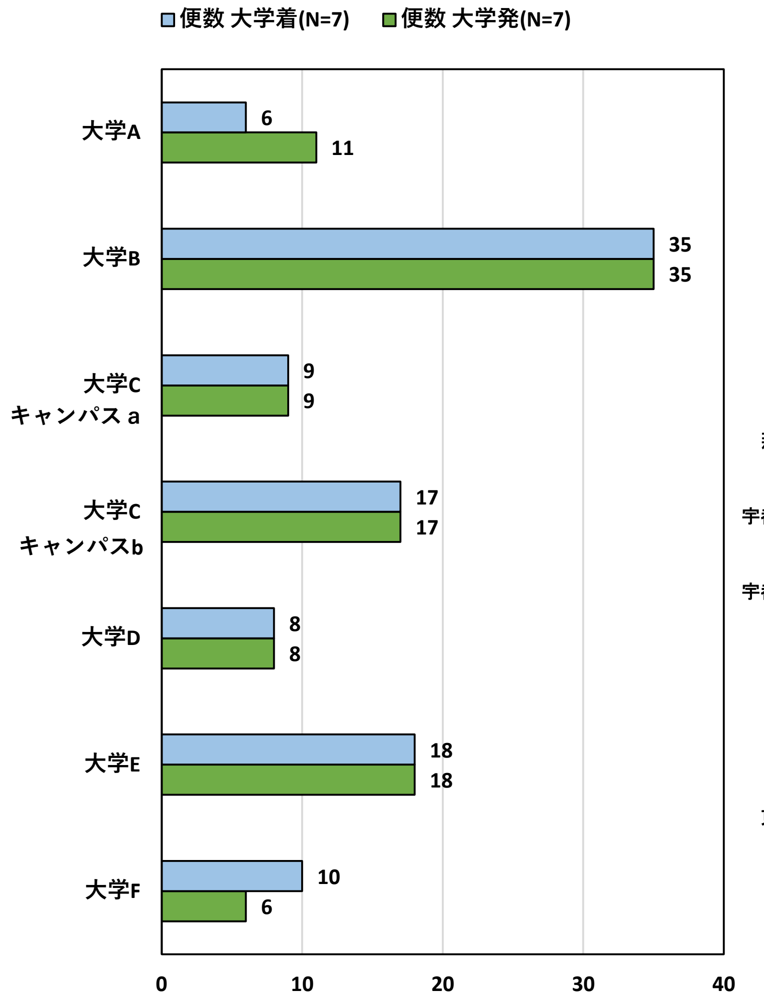
※Ｆ大学は、民間バス事業者にスクールバスの運行を委託 →

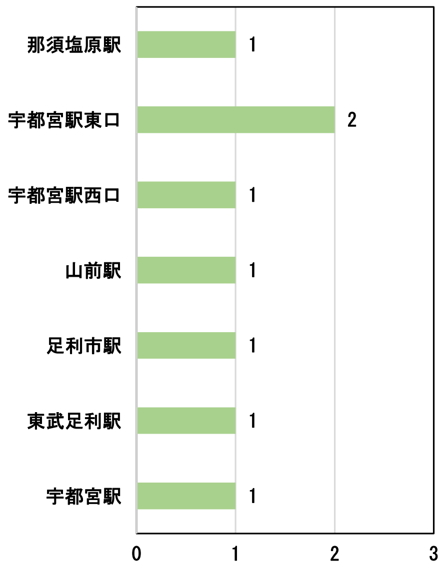
大学スクールバスの保有台数について



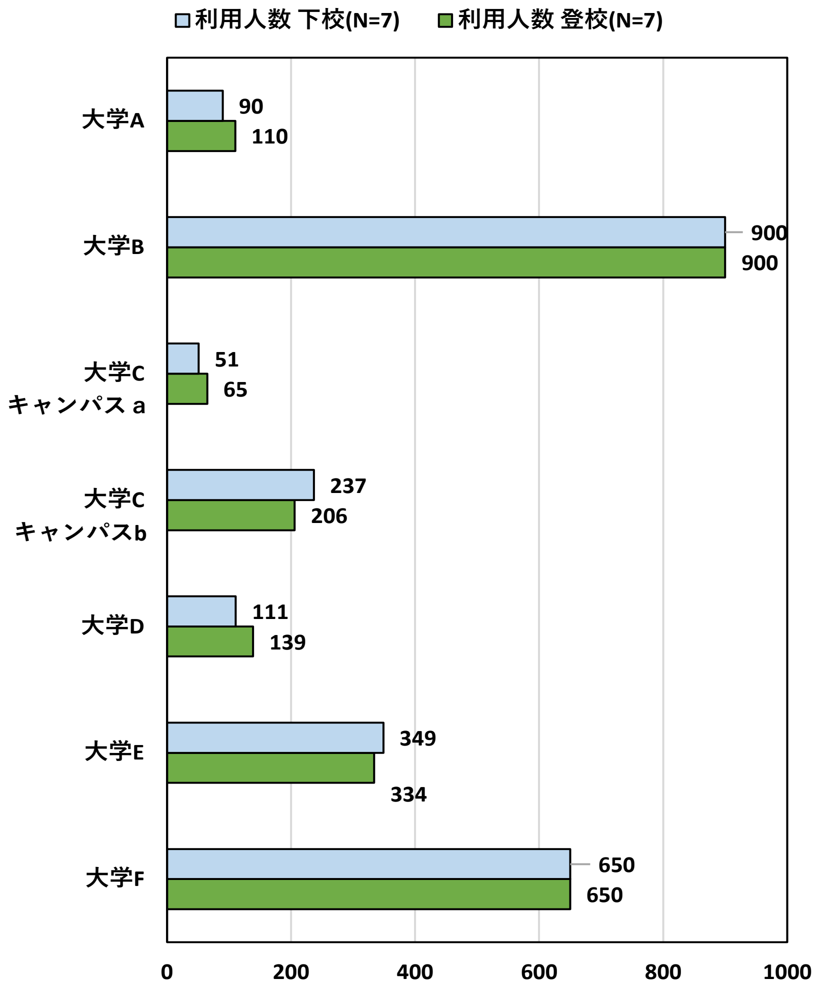
- ✓ １日当たりの往復回数は、最も多いB大学で35便/日。
- ✓ 利用駅の重複はみられない。
- ✓ 利用人数については、最も多いB大学で往復各900名。

大学スクールバスの運行便数について

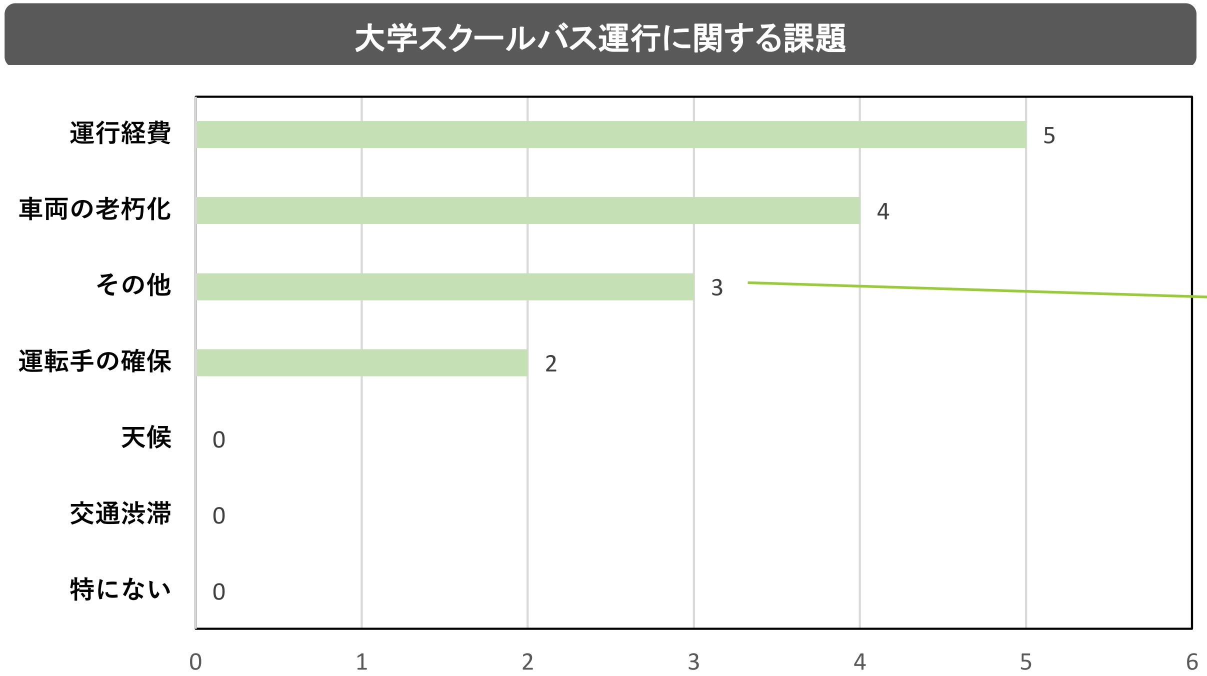




大学スクールバスの利用人数について



✓ 大学スクールバスを運行するにあたって、課題として最も多く挙げられた項目は「運行経費」であり、次いで「車両の老朽化」となっている。
✓ その他と課題として、スクールバスを利用する学生のマナーや、LRTの開業による運行計画の見直し等が挙げられた。



【その他３件の内訳】
- 駅での乗降場所の確保
  許可を受けている訳ではないので、停車時間や乗車待機している学生が歩行者等の迷惑にならないか　等
- ＬＲＴ開業に伴うスクールバス運行の検討

✓ すべての大学･校舎において、スクールバスの利用は無料となっている。
✓ 民間バス会社に委託して、スクールバスを運行しているケースでは、市町から510万円の補助を受けている。

２．データ等による検証分析　⑵多様な輸送資源 ～レンタ/シェアサイクル～

12月協議会より再掲

【調査目的】
　地域の多様な輸送資源として、レンタサイクル／シェアサイクルの設置状況を把握し、地域の移動手段の一つとしての活用可能性を検討するために活用する。

レンタサイクル

	市町	貸出場所
県北	那須塩原市	西那須野駅東口自転車駐輪場（7台）／まちなか交流センターくるる
	大田原市	大田原市観光協会
	さくら市	和い話い広場／さくらテラス駅前情報館（3台）
	那須烏山市	那須烏山市観光協会
	那須町	道の駅那須高原友愛の森（6台）
県央	宇都宮市	宮サイクルステーション（16台）
	鹿沼市	Ookurabike／まちの駅 新・鹿沼宿（7台）
	日光市	日光市観光協会／日光市足尾行政センター（5台）／間藤駅（5台）
	真岡市	真岡市観光協会／真岡駅（5台）
	下野市	オアシスポッポ館／自治医科大駅東自転車駐輪場／石橋駅自転車駐輪場／三王山ふれあい公園管理事務所／下野薬師寺歴史館
	益子町	道の駅ましこ／益子町観光協会／益子駅（15台）
	茂木町	茂木駅（3台）
	市貝町	道の駅サシバの里いちかい
	芳賀町	芳賀温泉ロマンの湯（5台）
	壬生町	おもちゃの町駅地下駐輪場（11台）／道の駅みぶ「みらい館」（8台）壬生駅前「小出自転車一時預かり所」（10台）／壬生タクシー（2台）
	矢板市	城の湯やすらぎの里
県南	小山市	小山市観光協会／まちの駅思季彩館
	栃木市	栃木市観光協会
	佐野市	アルシオーネ・コート佐野
	足利市	太平記館（31台）／足利観光交流館 あし・ナビ（32台）
	野木町	野木駅西口（7台）／野木ホフマン館（14台）／きらり館（6台）

シェアサイクル

	市町	貸出ポート数
県央	宇都宮市	市内10か所（社会実験）
	日光市	日光シェアサイクル14か所／奥日光サイクルシェア2か所

- ✓ 福祉有償運送　　　：県南は他地域と比べて運行が多い。
- ✓ 交通空白地有償運送：県北が最も多く、県南では運行がない。
- ✓ 地域共助型　　　　：矢板市では、地域住民が主体となり運行する「地域共助型生活交通」の取組事例がある。

県央

福祉有償運送

市町	事業者数※3
宇都宮市	7
鹿沼市	4
日光市	5
真岡市	2
下野市	3
上三川町	1
益子町	3
茂木町	3
市貝町	2
芳賀町	3
壬生町	0
高根沢町	3
計	36

交通空白地有償運送

市町	路線数
日光市	3
計	3

県北

福祉有償運送

市町	事業者数※3
那須塩原市	5
大田原市	4※1
矢板市	3
さくら市	2
那須烏山市	2
塩谷町	2
那須町	1
那珂川町	5
計	24

交通空白地有償運送

市町	路線数
大田原市	13
矢板市	11※2
那須烏山市	2
那須町	2
計	28

県南

福祉有償運送

市町	事業者数※3
小山市	3
栃木市	12
足利市	11
佐野市	9
野木町	2
計	37

※1　県内の福祉有償運送は、NPO法人等により運行されているケースが多い。市町村運営では、大田原市のみ１区域を運行。
※2　県内の交通空白地有償運送は、市町村により運行されているケースが多い。NPO法人等運営では、矢板市において地域住民が主体となり1路線を運行（地域共助型生活交通）。
※3　当該市町内で福祉有償運送事業を実施している事業者の数。

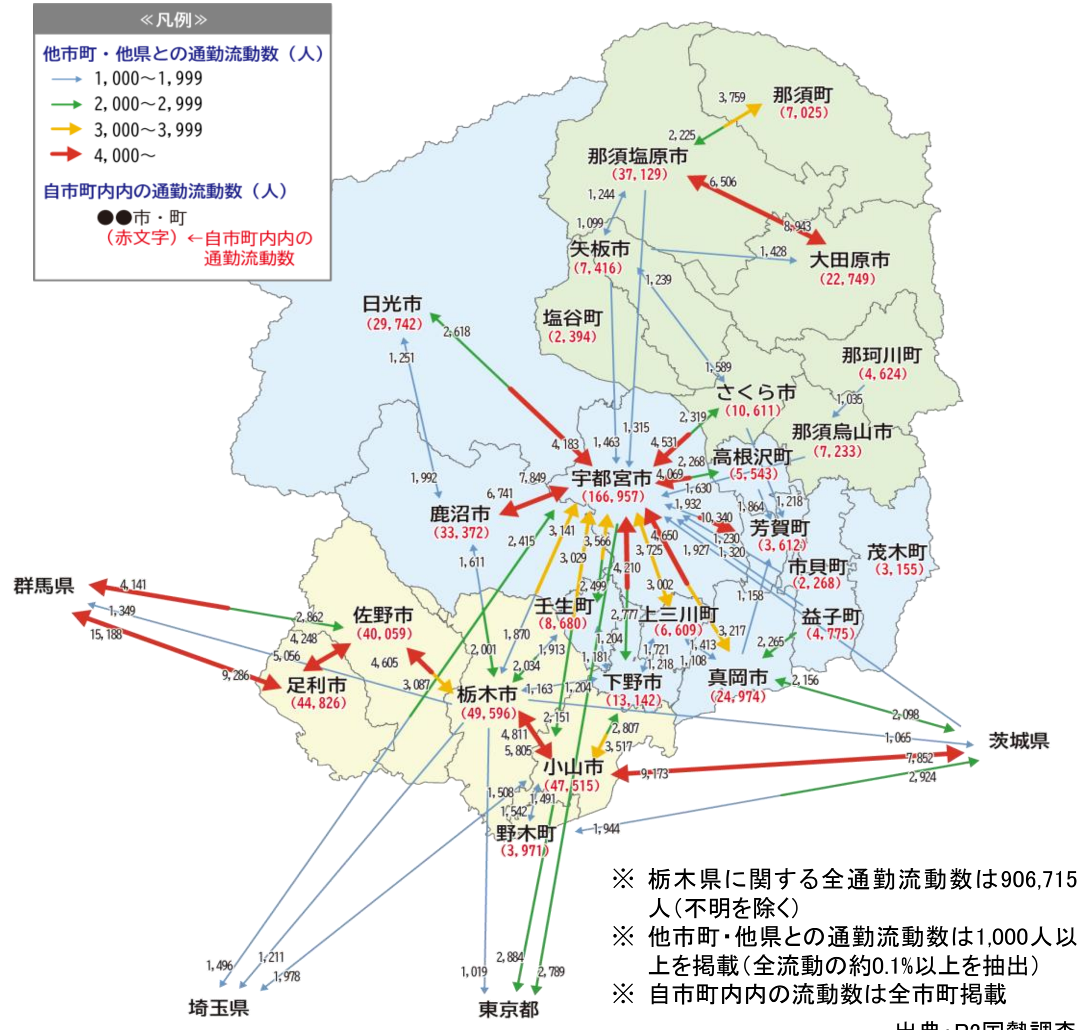
出展：栃木県ホームページ（福祉有償運送　登録法人一覧）

12月協議会より再掲

【調査目的】
　公共交通の利用の多い通勤・通学時における人の流動を把握し、人口動向等や大規模施設の立地状況など、地域の現状との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用する。

- ✓ 通勤・通学ともに県都宇都宮市を中心とした流動がみられる。特に通勤では流入が目立つ。
- ✓ 県南・県央では隣接県との流動も多く、佐野市・足利市は群馬県、小山市は茨城県との流動が目立つ。

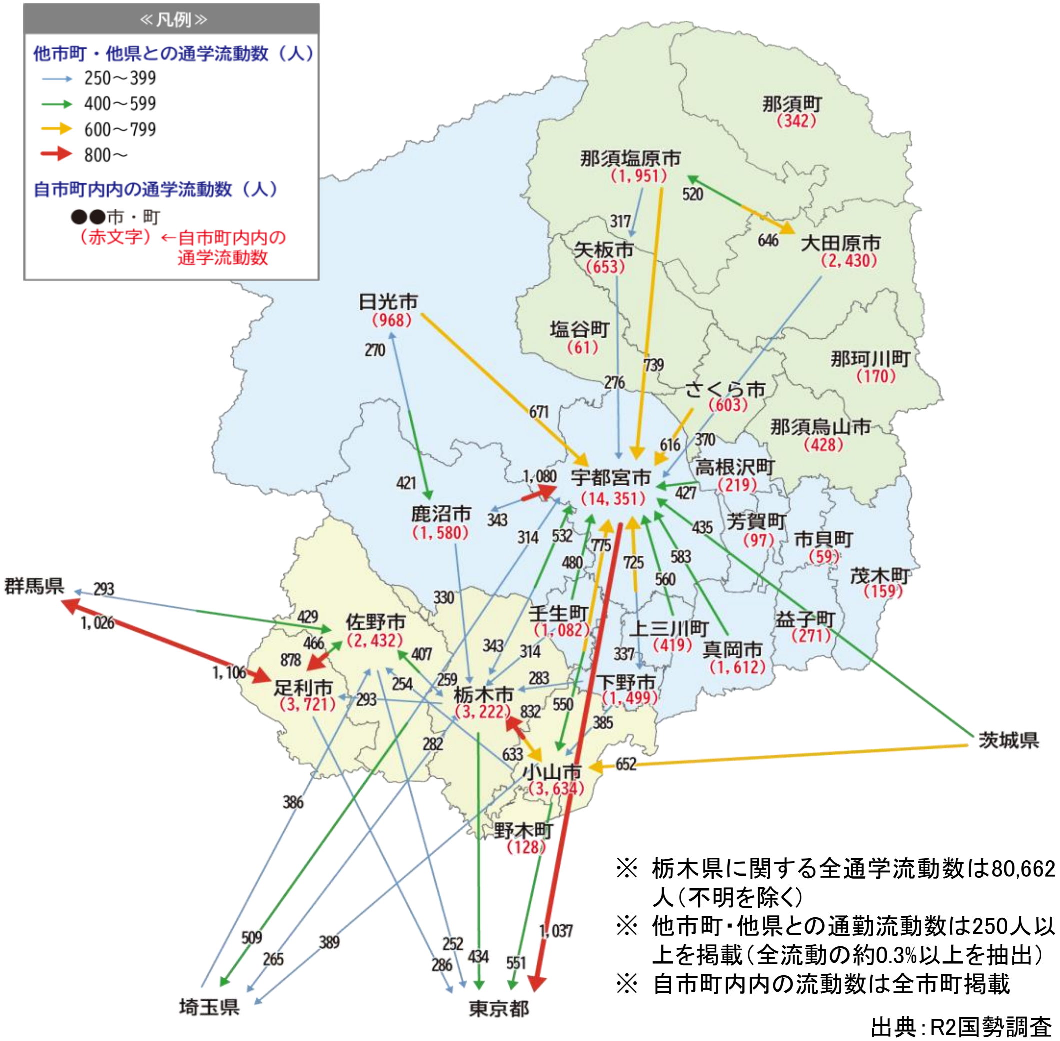
通勤流動



※ 栃木県に関する全通勤流動数は906,715人（不明を除く）
※ 他市町・他県との通勤流動数は1,000人以上を掲載（全流動の約0.1%以上を抽出）
※ 自市町内内の流動数は全市町掲載

出典：R2国勢調査

通学流動



※ 栃木県に関する全通学流動数は80,662人（不明を除く）
※ 他市町・他県との通勤流動数は250人以上を掲載（全流動の約0.3%以上を抽出）
※ 自市町内内の流動数は全市町掲載

出典：R2国勢調査

【参考】栃木県全体の交通分担率　→　自動車：73.3%、バス：1.5%、鉄道：3.5%、自転車：7.6%

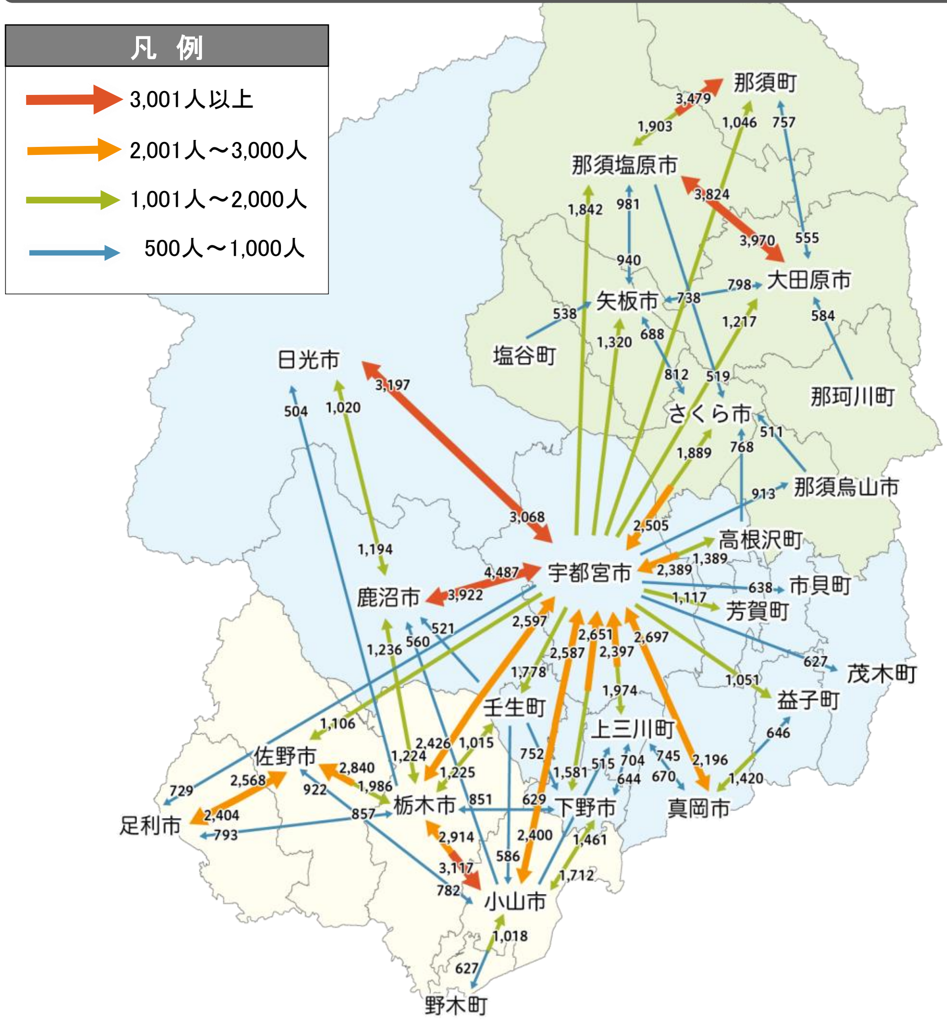
２．データ等による検証分析　⑶移動実態 ～休日の人口流動（県内）～

12月協議会より再掲

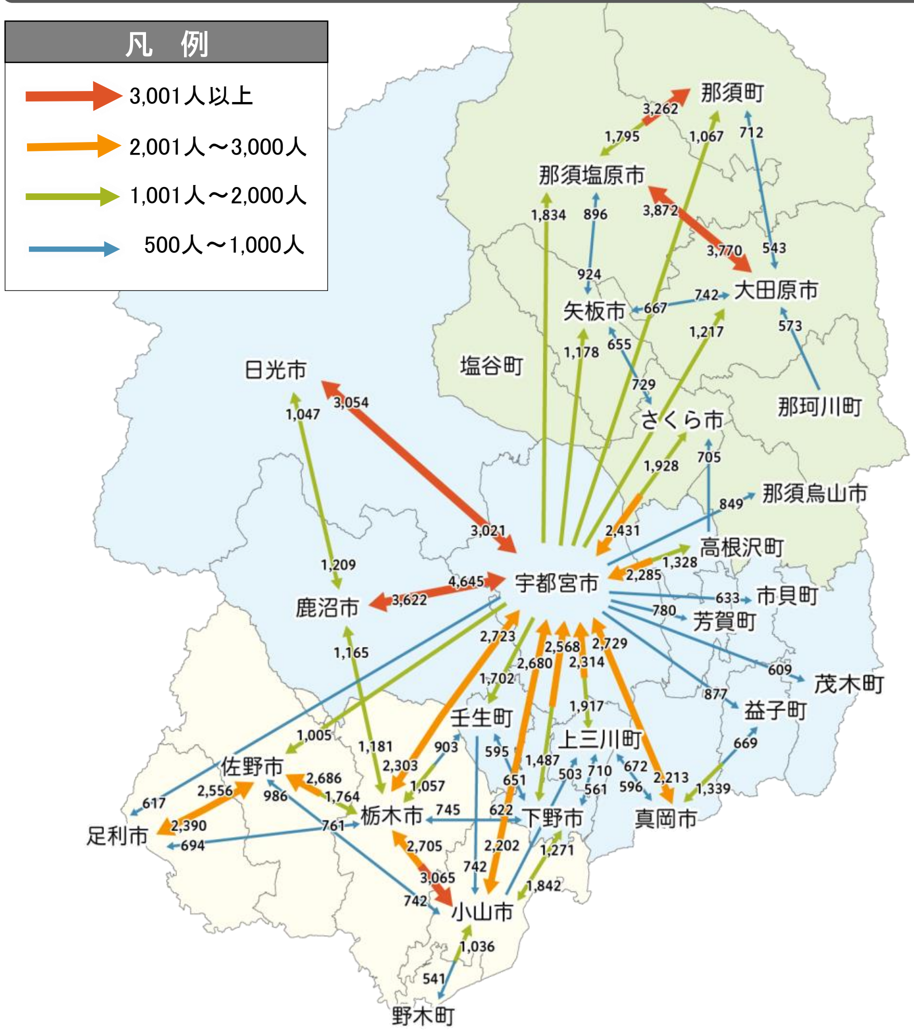
【調査目的】
　通勤・通学時（平日）ではない休日における人の流動を把握し、人口動向等や大規模施設等の立地状況など、地域の現状との関連で公共交通NWの形成が十分かどうかの確認等に活用する。

- ✓ 県北地域は那須塩原市・大田原市・那須町、県央地域は宇都宮市・日光市・鹿沼市、県南地域は栃木市・小山市を中心とした流動が多く、県都宇都宮市においては県北及び県南との流動も多い。
- ✓ コロナ禍前2019年と現在2022年との比較では、休日の人の流動に大きな違いは見られない。

【栃木県内】人口流動（2019年5月　休日10時）



【栃木県内】人口流動（2022年5月　休日10時）



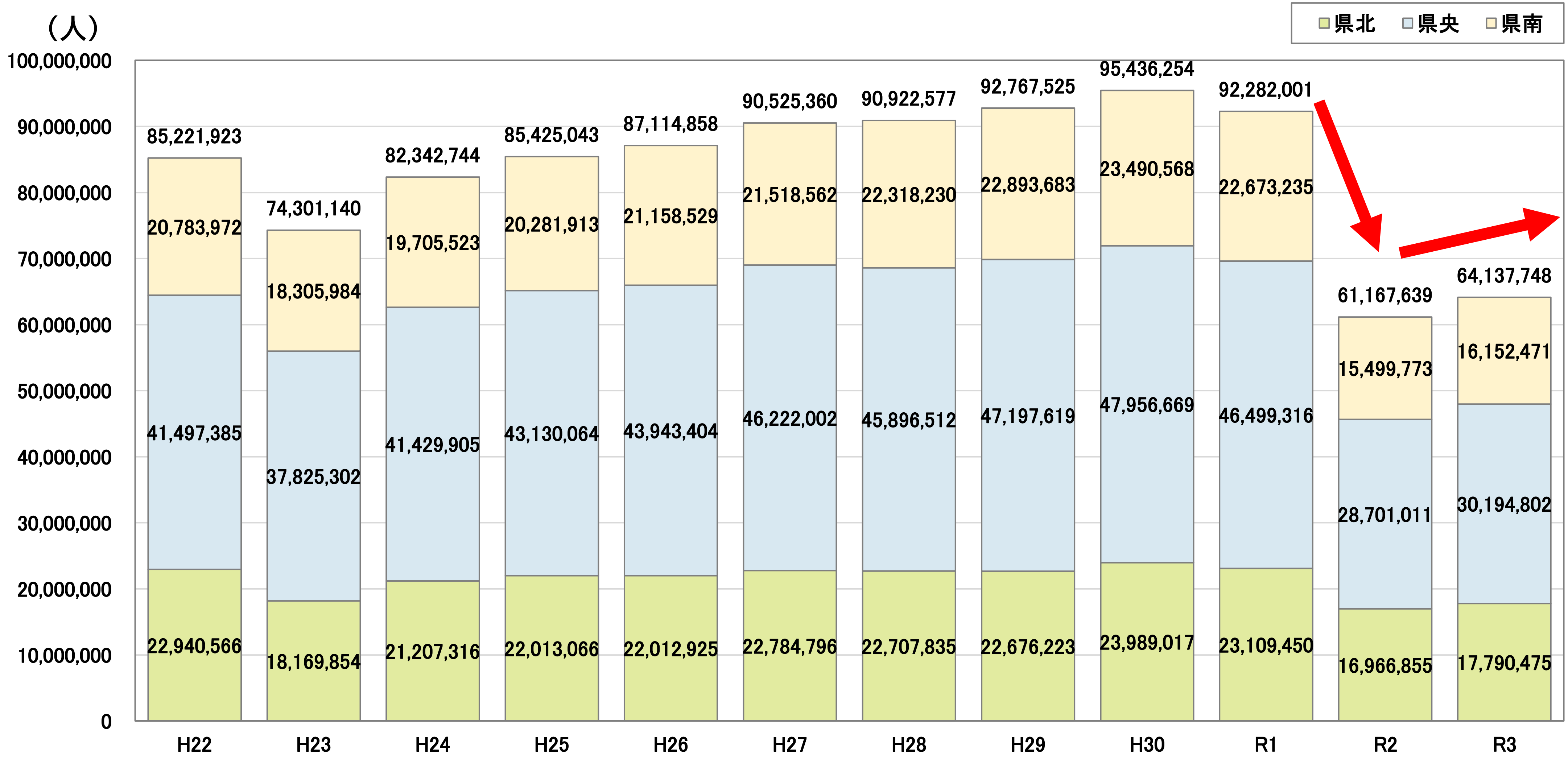
※　人口流動は、休日10時における他自治体の滞在人口を流動数として算出
※　流動数は500人以上、かつ、RESASで把握可能な上位9位までを掲載

出典：RESAS（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」）

【調査目的】
地域内外からの重要な収益源となる観光客の動向を把握するとともに、公共交通の利用促進に向けた検討に活用。

- ✓ 東日本大震災（H23）以降、インバウンド観光客の増加とともに、県内の観光入込客数は増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、R2に大きく減少。

観光客入込数の推移



出典：栃木県産業労働観光部観光交流課「栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果」

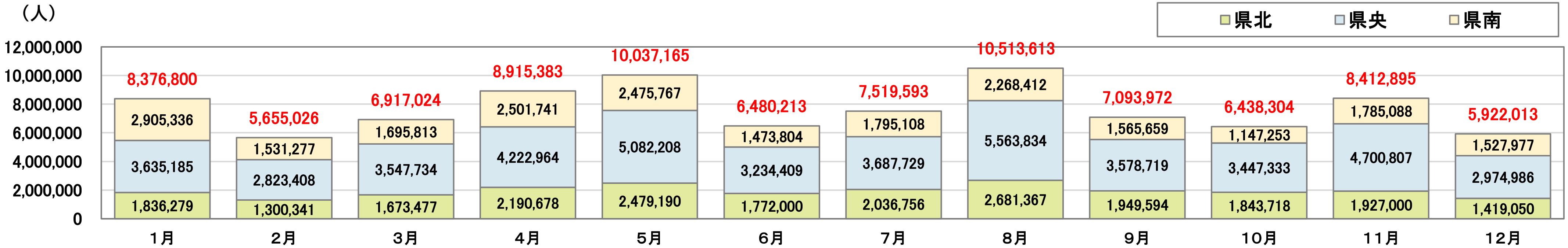
２．データ等による検証分析　⑶移動実態 ～観光客入込数（月別）～

【調査目的】

地域内外からの重要な収益源となる観光客の動向を把握するとともに、公共交通の利用促進に向けた検討に活用。

- ✓ コロナ禍前（令和元年）の観光入込客数を月別でみると、大型連休のある4～5月、夏休み・お盆のある7～8月に多い。
- ✓ 佐野市においては、佐野厄除け大師への参拝客が多く訪れる1月が多い。

令和元年（2019年）の月別観光入込客数



		１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月
県北	大田原市	372,822	217,217	255,177	356,555	305,281	371,139	244,367	404,508	200,762	219,111	314,298	168,182
	矢板市	132,534	102,982	122,142	195,195	218,016	156,020	139,745	185,300	164,253	156,467	176,179	131,031
	那須塩原市	799,129	500,253	704,299	806,395	872,227	587,338	788,213	1,010,710	689,795	685,303	717,699	650,347
	さくら市	145,566	161,687	163,702	180,082	175,155	141,406	183,506	205,933	147,657	141,208	159,810	148,825
	那須烏山市	16,256	14,176	20,820	32,573	66,032	31,629	112,367	50,887	37,209	28,006	37,450	10,276
	塩谷町	41,172	39,652	52,145	52,003	61,799	48,971	47,544	68,687	55,486	45,318	54,450	43,252
	那須町	202,422	201,629	282,784	465,503	647,208	354,791	430,561	619,451	552,985	467,970	371,716	202,189
	那珂川町	126,378	62,745	72,408	102,372	133,472	80,706	90,453	135,891	101,447	100,335	95,398	64,948
県央	宇都宮市	1,357,033	945,314	1,189,831	1,117,499	1,419,310	1,017,707	1,027,235	2,206,563	1,121,089	1,081,960	1,397,189	887,670
	鹿沼市	366,382	194,947	207,868	290,723	693,610	280,199	162,995	172,041	192,462	192,096	235,149	130,204
	日光市	678,897	671,700	764,909	821,762	1,120,079	913,319	1,019,919	1,322,249	1,100,143	1,107,866	1,511,602	781,093
	真岡市	357,648	177,962	270,588	273,167	304,672	160,350	522,093	436,410	167,434	136,133	202,158	169,136
	下野市	144,081	136,019	219,881	336,391	198,588	148,473	149,668	180,520	151,197	134,262	184,465	252,147
	上三川町	1,296	1,061	936	912	1,008	1,586	40,652	25,170	2,559	2,711	3,011	2,313
	益子町	137,987	173,169	208,026	380,711	455,587	160,943	176,921	227,364	225,054	159,619	440,351	163,958
	茂木町	221,134	181,235	274,659	300,233	269,462	187,097	225,244	378,225	249,330	268,388	299,880	201,027
	市貝町	29,148	27,352	37,277	203,432	106,500	29,861	28,733	67,272	31,692	26,715	29,358	27,229
	芳賀町	59,061	45,292	47,559	74,064	48,194	41,093	40,294	95,093	46,023	39,951	45,746	45,688
	壬生町	232,583	228,493	281,538	372,402	402,564	262,421	276,501	428,593	263,545	273,018	308,743	254,080
	高根沢町	49,935	40,864	44,662	51,668	62,634	31,360	17,474	24,334	28,191	24,614	43,155	60,441
県南	足利市	455,947	222,826	242,595	588,537	797,361	267,226	172,016	815,302	196,709	213,492	477,627	413,022
	栃木市	503,254	317,037	468,644	821,949	651,990	472,132	349,436	453,199	488,055	306,377	403,523	278,948
	佐野市	1,697,995	763,016	700,781	693,874	737,581	524,683	480,592	771,583	551,180	441,885	589,167	622,482
	小山市	239,661	221,757	273,783	387,706	249,936	201,777	718,777	221,465	323,099	179,514	300,040	200,753
	野木町	8,479	6,641	10,010	9,675	38,899	7,986	74,287	6,863	6,616	5,985	14,731	12,772

出典：栃木県産業労働観光部観光交流課「栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果」

【調査目的】

観光シーズン（GWのある5月の休日）における人の流動を把握し、地域外からの重要な収益源となる観光面における公共交通の利用促進に向けた検討に活用する。※RESASは2014年４月～2022年６月のデータのためコロナ禍前後を把握できる5月を分析。

- ✓ 10時～14時の日中の県外からの流入人口は、県北は那須町及び那須塩原市、県央は宇都宮市及び日光市、県南は足利市及び佐野市が多く、観光地や大規模集客施設を有する自治体で多くなる傾向。
- ✓ 20時～4時の夜間（宿泊客など）の市町外からの流入人口のうち県外からの流入が占める割合は、那須町が最も高く、次いで日光市と、県外からの流入人口と同様に観光地や大規模集客施設を有する自治体で高い。
- ✓ コロナ禍においては、県外からの流入人口及び占める割合は減少しているが、傾向はコロナ禍前と同様となっている。

観光シーズンにおける県外からの流入人口（2019年5月休日　2022年5月休日）

		2019年5月休日								2022年5月休日（コロナ禍　参考）							
		4時		10時		14時		20時		4時		10時		14時		20時	
		県外からの流入人口（人）	全流入人口に占める県外からの割合(%)	県外からの流入人口(人)	全流入人口に占める県外からの割合(%)	県外からの流入人口(人)	全流入人口に占める県外からの割合(%)	県外からの流入人口(人)	全流入人口に占める県外からの割合(%)	県外からの流入人口(人)	全流入人口に占める県外からの割合(%)	県外からの流入人口(人)	全流入人口に占める県外からの割合(%)	県外からの流入人口(人)	全流入人口に占める県外からの割合(%)	県外からの流入人口(人)	全流入人口に占める県外からの割合(%)
県北	大田原市	3,851	6.05	5,261	8.20	5,715	8.89	4,034	6.36	2,864	4.63	4,234	6.77	4,453	7.15	2,864	4.66
	矢板市	2,973	9.67	4,764	14.67	4,642	14.73	3,793	12.11	2,071	7.10	3,273	10.77	3,394	11.42	2,187	7.51
	那須塩原市	12,054	11.00	16,448	14.94	19,012	16.76	12,932	11.73	8,988	8.40	13,120	12.11	15,532	13.92	9,281	8.66
	さくら市	2,471	6.45	3,094	8.09	3,102	8.24	2,667	6.92	1,801	4.74	2,499	6.55	2,586	6.85	1,871	4.93
	那須烏山市	1,871	7.52	2,227	9.34	2,138	9.30	1,729	7.23	1,225	5.32	1,618	7.26	1,636	7.54	1,206	5.39
	塩谷町	1,105	10.01	1,410	13.54	1,397	13.89	988	9.51	740	7.29	1,175	11.77	1,110	11.49	784	7.92
	那須町	15,948	41.19	24,025	48.68	26,551	50.88	15,604	40.93	12,106	35.29	18,634	43.15	20,056	44.56	11,583	34.39
	那珂川町	1,503	9.34	2,055	12.98	2,154	13.93	1,450	9.40	1,032	7.05	1,635	11.29	1,612	11.41	1,095	7.65
県央	宇都宮市	25,723	5.75	33,094	7.39	37,485	8.21	28,044	6.15	20,607	4.61	28,019	6.20	32,137	6.99	22,122	4.87
	鹿沼市	3,971	4.60	7,927	8.99	7,560	8.85	3,881	4.52	2,979	3.54	6,224	7.34	5,914	7.18	2,851	3.46
	日光市	17,693	19.74	26,569	27.19	28,937	29.13	16,639	19.16	12,973	15.71	18,998	21.64	20,104	22.77	11,772	14.69
	真岡市	3,295	4.74	6,198	8.85	6,646	9.63	3,736	5.44	2,516	3.66	5,038	7.28	5,354	7.84	2,779	4.08
	下野市	2,448	4.74	3,855	7.87	4,053	8.51	2,653	5.33	1,986	3.84	3,249	6.65	3,220	6.81	2,075	4.12
	上三川町	1,398	5.19	2,477	9.11	2,521	9.29	1,787	6.74	1,324	4.90	2,222	8.13	2,263	8.31	1,522	5.74
	益子町	1,282	6.18	5,475	22.95	6.43	23.34	1,278	6.43	907	4.52	4,672	20.46	4,346	19.48	986	5.05
	茂木町	1,739	13.31	4,259	27.87	4,787	30.72	1,573	12.69	1,187	10.01	3,038	22.33	3,207	23.69	1,089	9.51
	市貝町	602	5.71	1,233	12.34	1,210	12.58	559	5.67	433	4.19	936	9.41	854	8.86	452	4.53
	芳賀町	814	5.82	1,085	7.50	1,136	8.12	858	6.29	644	4.76	912	6.69	881	6.76	619	4.72
	壬生町	1,701	4.89	2,853	8.53	3,076	9.41	1,660	5.01	1,598	4.66	2,205	6.64	2,226	6.95	1,431	4.33
	高根沢町	1,601	6.22	2,020	8.50	1,819	7.99	1,490	6.07	1,150	4.53	1,471	6.21	1,432	6.25	1,079	4.42
県南	足利市	6,970	5.24	20,500	15.18	23,864	17.69	11,614	8.72	5,167	4.01	15,527	11.99	17,582	13.67	8,861	6.84
	栃木市	7,063	4.95	15,962	11.04	16,730	11.75	8,306	5.90	5,092	3.68	13,266	9.43	14,196	10.22	5,772	4.21
	佐野市	6,606	6.21	17,475	15.41	25,225	20.81	9,811	8.98	4,927	4.76	14,465	13.13	20,567	17.68	7,258	6.88
	小山市	7,222	5.03	15,488	10.86	18,716	12.96	12,053	8.17	6,225	4.30	13,974	9.68	17,040	11.63	9,901	6.71
	野木町	1,193	5.32	2,733	13.32	2,855	14.69	1,578	7.40	955	4.29	2,268	11.24	2,402	12.34	1,224	5.71

出典：RESAS（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」）

①長大路線の利用実態

- 長大路線だが市町を跨がない短距離区間での利用が多い
- 各市町の拠点施設、高校・大学などの一部のバス停に利用が集中している傾向があり、特に県補助対象の路線において顕著な傾向がある
- 宇都宮市を起終点とする路線では、宇都宮市外の利用が少ない路線が存在している
- 宇都宮市内を走る路線では、JR宇都宮駅～東武宇都宮駅（約2km）の移動手段として、長大路線が賄われている傾向がある

②高校生を中心とした学生利用

- 高校、大学周辺のバス停で朝夕の利用者が多く、路線が接続する鉄道駅から乗降している傾向がある（作新学院前⇔ 宇都宮駅、大田原女子高校前⇔西那須野駅 、真岡女子高校前⇔石橋駅など）
- 大学前のバス停は、講義時間の影響から高校前バス停よりも利用者が増加する時間帯が分散している傾向がある

③郊外主要拠点との接続

- 路線の起終点以外に立地するベルモール、トコトコ大田原、アグリパル塩原などの拠点施設での乗降が多く、郊外主要拠点への移動の足として一定の需要がある

※系統ごとの詳細な分析については作業中。

【調査目的】
　地域外からの重要な収益源となるビジネス面における公共交通の利用促進に向けた検討に活用するため、ビジネス目的による県外来訪者の公共交通の利用実態を把握するとともに県内公共交通サービスの課題や改善点の抽出を行う。
✓ ビジネス目的での県外来訪者の公共交通の利用実態等を把握するため、Webアンケートを実施する。

Webアンケート調査概要

※前回資料からの更新箇所を赤字下線で表示

１　調査方法

Webアンケート　※委託

２　実施時期

１月中にアンケート回収

３　調査項目

・栃木県への来訪頻度
・利用頻度の高い駅
・最終目的地までの交通手段
・公共交通の利便性に対する意見　など

４　調査対象者

過去6か月以内に栃木県にビジネス目的で来訪した者

５　目標回収数

400票

２．データ等による検証分析　⑷移動手段確保 ～バス事業者ヒアリング～

12月協議会より再掲

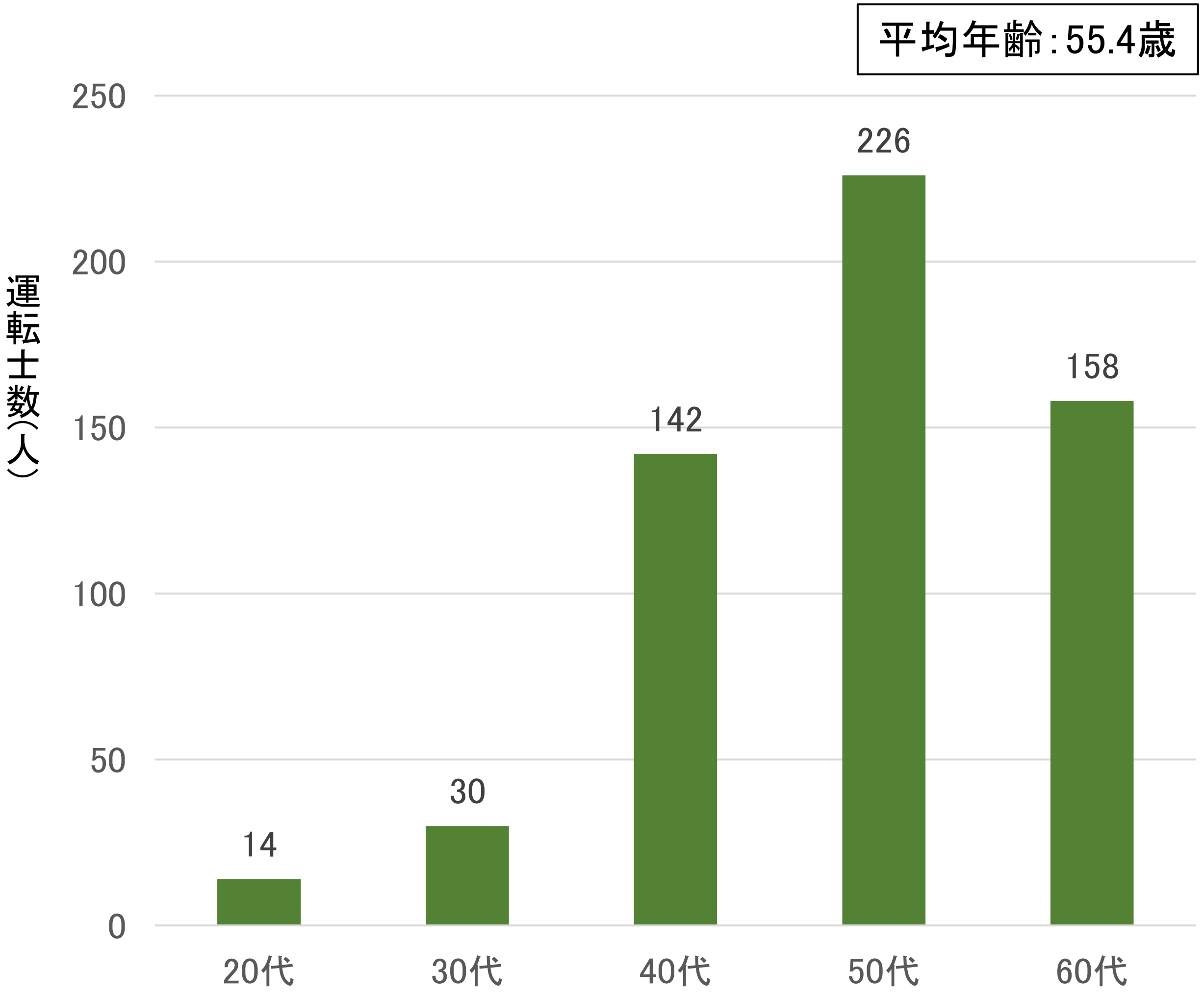
【調査目的】
地域公共交通を支える交通事業者（路線数の多い上位４バス事業者）の現状や課題を把握し、県内全域を対象とした地域公共交通政策の検討にあたり、県の役割の明確化や公共交通の維持・充実に向けた検討を行うために活用する。

バス事業者の現況や共通の課題、県に支援を求める取組や補助制度、その他意見

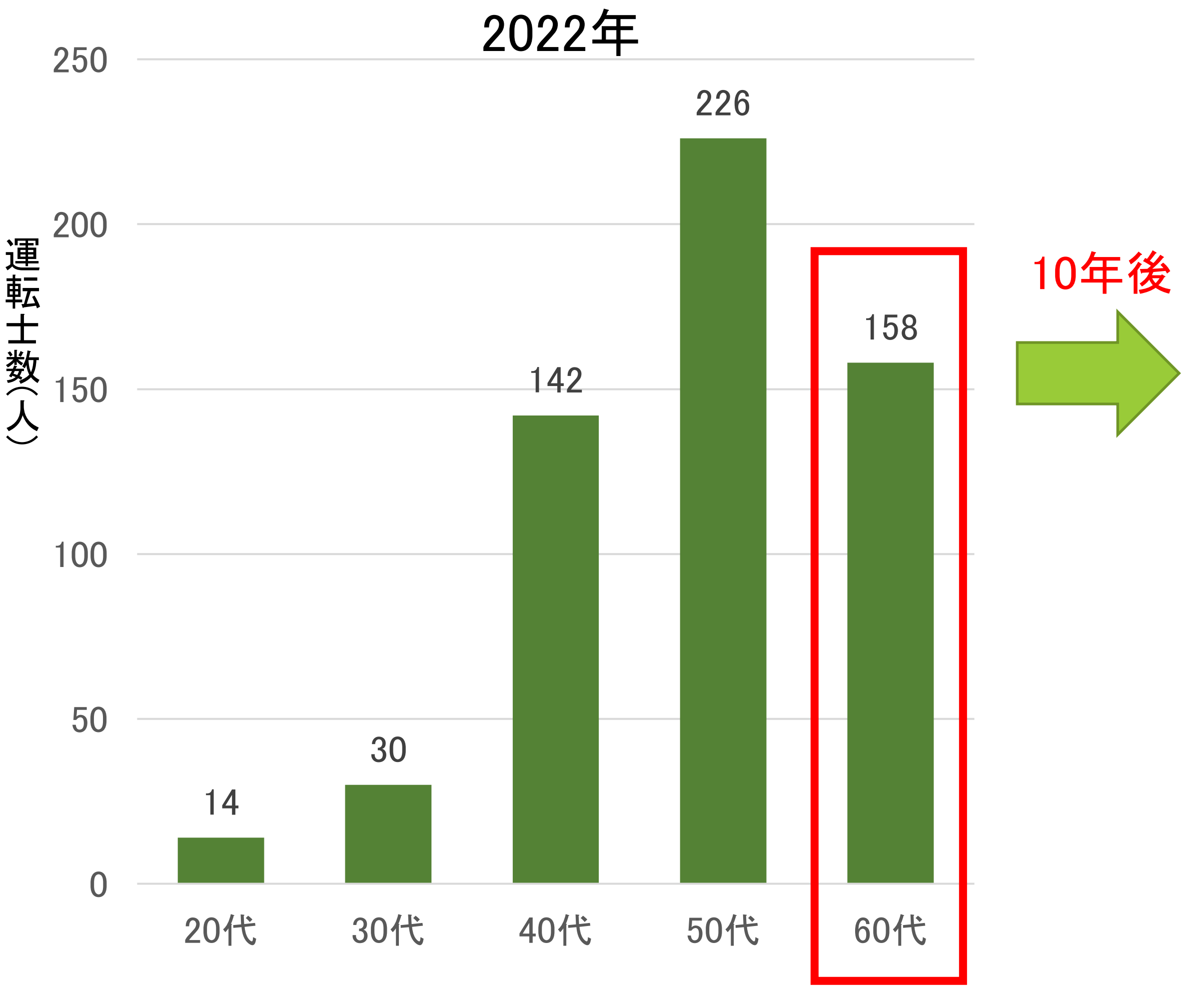
分類		内容
バス事業者の現状		●コロナ禍前との比較において、現在の利用者数は都市部で８割程度、県北６割程度の回復状況 観光地では5割程度の回復状況 ●ヒアリングを実施したすべての事業者において、運転手の平均年齢は50代
バス事業者 共通の課題		●運転手の不足・高齢化が課題、若手人材不足に定年者の再雇用で対応 ●バス車両の不足、車両の老朽化等が進む中、新車購入は非常に高額な費用負担 ●定時性の確保（朝・有の通勤時、観光地シーズン時の道路渋滞、道路工事等による遅れ）に向けた走行環境整備に向けて県との連携した取組が必要
県に対する要望		●県の補助制度の改定（国の補助要件との整合、往復回数等の要件の改定）による支援の充実 ●物価高騰や最低賃金の見直し等を踏まえ、燃料費、機器（精算機等）の更新費の補助 ●路線バスの割引制度等県内での統一ルールが不明確（精神障碍者割引規則、等）、子育て世代への通学定期券の購入補助制度や支援制度の申請窓口等の一本化 ●機器導入の初期費用だけでなく、維持管理に係るランニング費用に対する支援（バス案内表示設置後の維持管理等） ●一般路線バスへのバスロケーションシステム導入に向けた支援等
その他の意見	DX、GTFS活用	●ICカードデータを活用した利用実績の分析や運行水準決定への活用等への期待あり ●GTFSは、大規模バス事業者は整備済み、中小事業者は整備遅れのケースもあり
	EV化、車両購入	●県北地域では、自治体が主体となりEVバスの導入に取り組む事例あり
	新たな取組	●フリーきっぷをふるさと納税で販売する等、自治体と連携する取組あり

栃木県内で市町を跨ぐ路線を有するバス会社、観光路線を有しているバス会社を対象に運転士の年齢構成を調査（2022年11月時点）
- ✓ 50代の運転士が最も多く、次いで60代、40代が多い。
- ✓ 20代、30代の運転士が顕著に少なく、若い世代の担い手の確保、高齢化が課題。

【調査対象】
関東自動車、JRバス関東（宇都宮支店、西那須野支店）、東武バス日光、日光交通の乗合・貸切・高速を担当する運転士（契約社員含む）



- ✓ 2022年11月時点の年齢構成のデータを基準として10年後の年齢構成を整理した。
- ✓ 若い世代の担い手不足が続いた場合、現在60代の運転士158名が退職する可能性があり、運転士の高齢化はより顕著になる。
- ✓ ヒアリングでは、大型2種免許の取得補助や中途採用に注力している事業者が多いことが明らかとなった。



２．データ等による検証分析　(4)移動手段確保 ～タクシー協会ヒアリング～

12月協議会より再掲

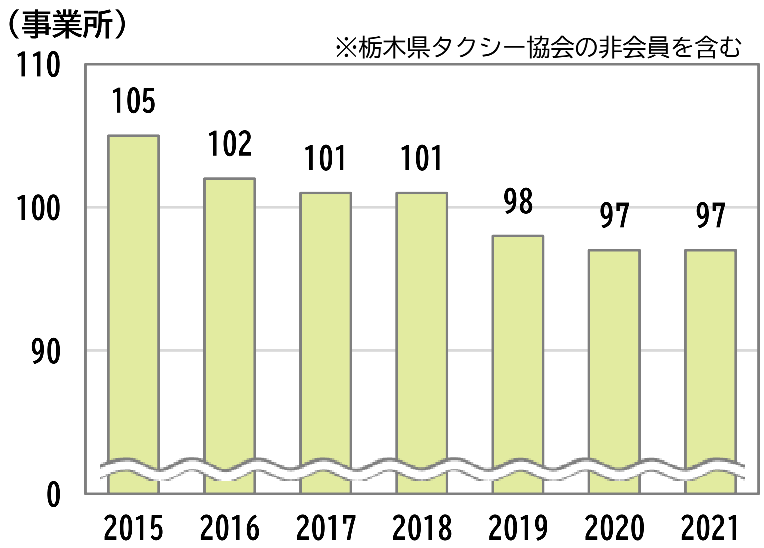
【調査目的】
地域公共交通を支える交通事業者（タクシー）の現状や課題を把握し、県内全域を対象とした地域公共交通政策の検討にあたり、県の役割の明確化や公共交通の維持・充実に向けた検討を行うために活用する。

分類	内容
タクシー業界の現状と課題	● 県内タクシー事業者の大半はコロナ禍における経営状況の悪化により、現状維持することで精一杯 ● 観光地では、行動制限の緩和による観光客増加の影響を受け、利用状況の改善がみられる
担い手の状況	● 低賃金・労働条件の不利、業界全体として慢性的な人材不足と高齢化が目立つ ● 人材確保のための賃金制度や労働条件の見直し・改善が早期に必要とされるが、ドライバーの待遇が大幅に変化することから現実的に困難な状況
デマンド交通に関する現状と課題	● 移動制約者向けの交通手段であるデマンド交通の本来の目的について再周知が必要 ● タクシーとデマンド交通の用途の違いを明確化した上でのタクシー事業者との共存への取組が必要
タクシー事業者の取組みと現状・課題	● 配車アプリ、キャッシュレス決済などの新技術について事業者側で対応に不安 ● 配車アプリの利用により利用者の落とし物等の追跡が容易 ● 運転免許返納者に対する割引は継続的に実施
利用者の要望	● 利用者から配車アプリやキャッシュレス決済などの利用の要望は多数あるが、一部事業者からは対応が難しいとの意見 ● 営業時間の延長等の要望もあるが、労働環境の見直しの背景もあり対応は困難
自治体等への要望	● 県に対しては、バス・タクシー事業者が存する地区での自家用有償運送の導入の検討にあたっては、慎重な検討が必要 ● 市町に対しては、タクシー事業者は中小企業が多いので、デマンドタクシー導入により民営事業者を圧迫しないよう、事業者への配慮や地元の事業者の活用を希望

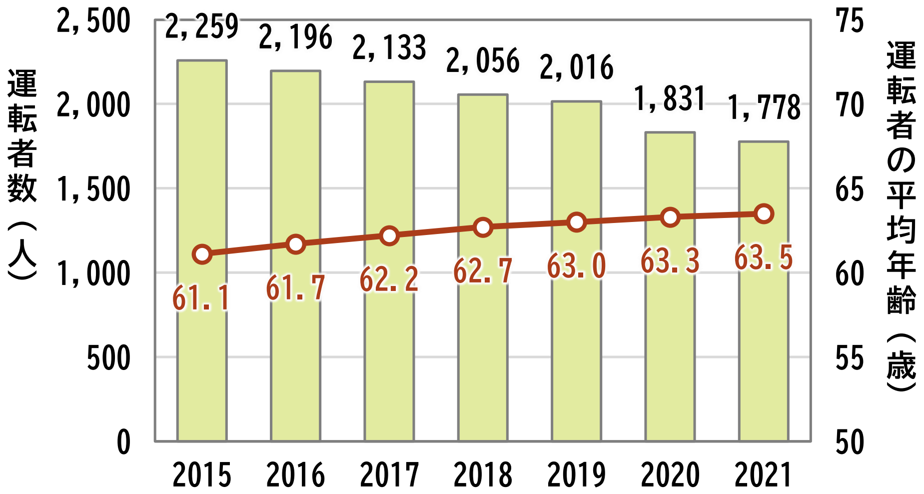
12月協議会より再掲

- ✓ 事業所数・運転者数・車両台数は年々減少し、運転者の平均年齢は上昇。
- ✓ 営業収入は近年減少傾向にあったが、新型コロナウイルス(2020)の影響を大きく受け、営業収入は激減。

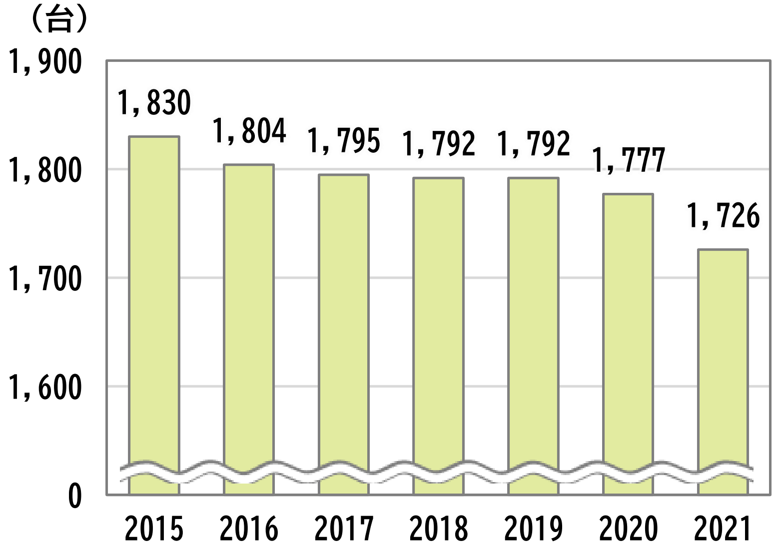
事業所数の推移



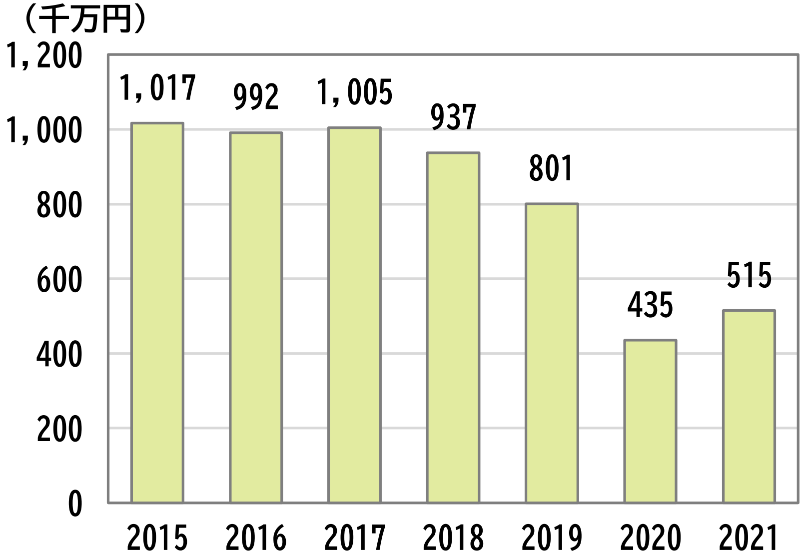
運転者数と平均年齢の推移



車両台数



営業収入の推移



出典：栃木県タクシー協会ヒアリング

12月協議会より再掲

【調査目的】
地域毎の公共交通の案内表示の実態を把握し、案内表示の統一化などによる公共交通の利便性向上のための検討に活用する。
✓ 鉄道駅におけるバスへの乗り換え案内表示の内容や手法は、駅によって大きく異なる。

- 改札から駅構内を抜けた正面に、バスの乗り場・行先案内が掲示
- 階段の上など、歩行者の動線に合わせて案内が掲示

- 駅構内にバスの行先案内が大きく掲示

- 改札の目の前や自由通路等に、バス乗り場へ誘導するピクトが大きく掲示

- 市の交流施設内のバス待合スペースに設置
- されたデジタルサイネージで、バスの発車
- 時刻を案内

２．データ等による検証分析　⑷移動手段確保 ～バスの案内表示②～

12月協議会より再掲

- 西口・東口いずれの方にもバスの案内ピクトがあるが、具体的な行先表記は無し
- 西口側の壁に小さく貼られているバス案内パンフを見ないと、西口・東口のどちらから発着するかも含め、行先や乗り場が確認できない

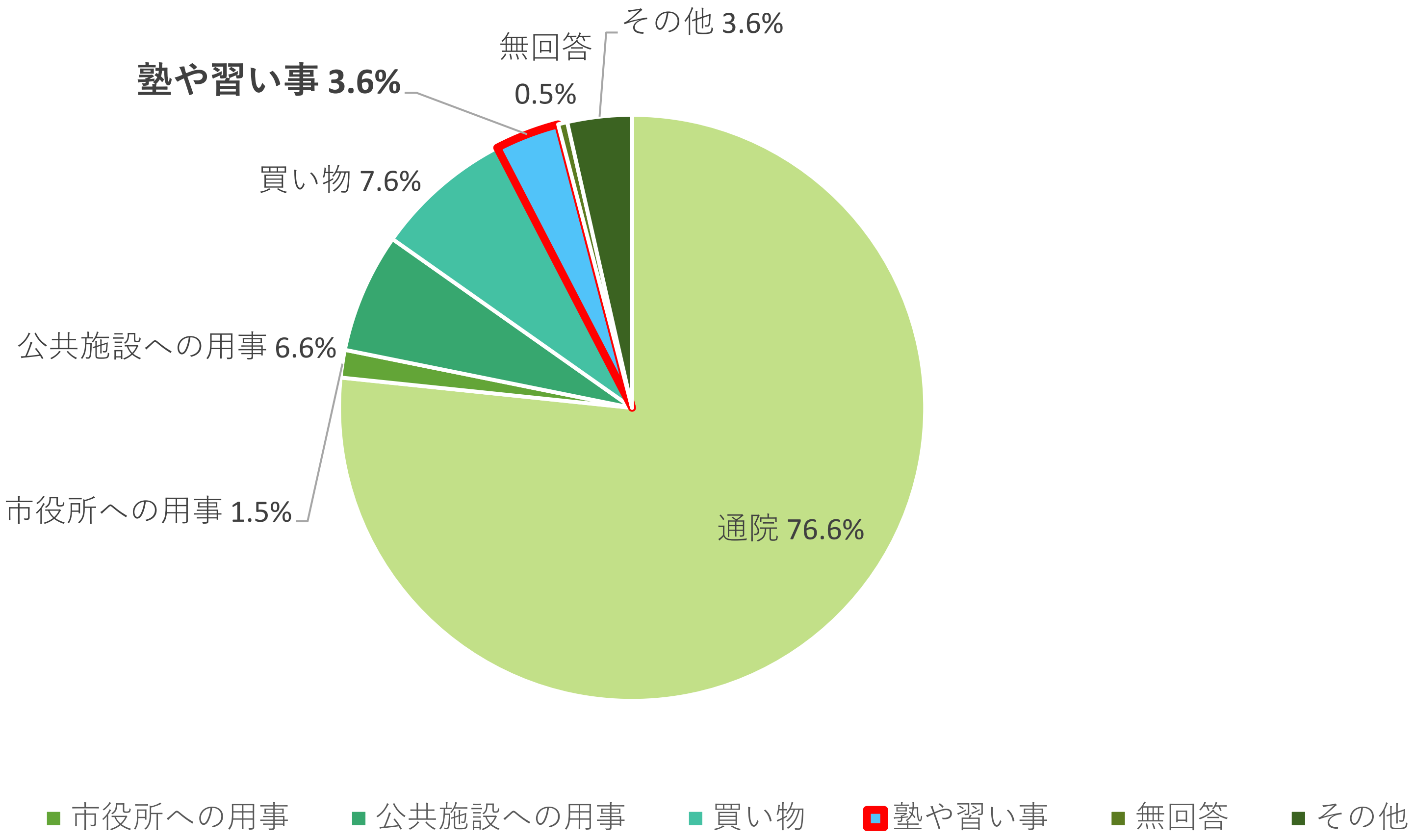
- 南口方面にバスの案内ピクトはないが、南口を発着するバスも12路線中3路線ある
- 南口を発着するバスの情報は、北口のバス路線図に掲示
- バスの乗り場表示の目印が小さい

- バスの乗り場案内の情報掲示は、駅の出入口の頭上1か所のみ
- バス乗り場の番号などは無く、バス停の目前まで行かないと発着路線が確認できない

- ✓ 前回協議会において、塾の送迎に関する実態把握を求める意見があったことから、調査の実施方法等について、現在事務局において検討を進めているところ。
- ✓ 下野市で実施したデマンド交通（おでかけ号）の利用に関する調査結果の中に、塾にかかわる内容があったことから今回参考資料として示すもの。

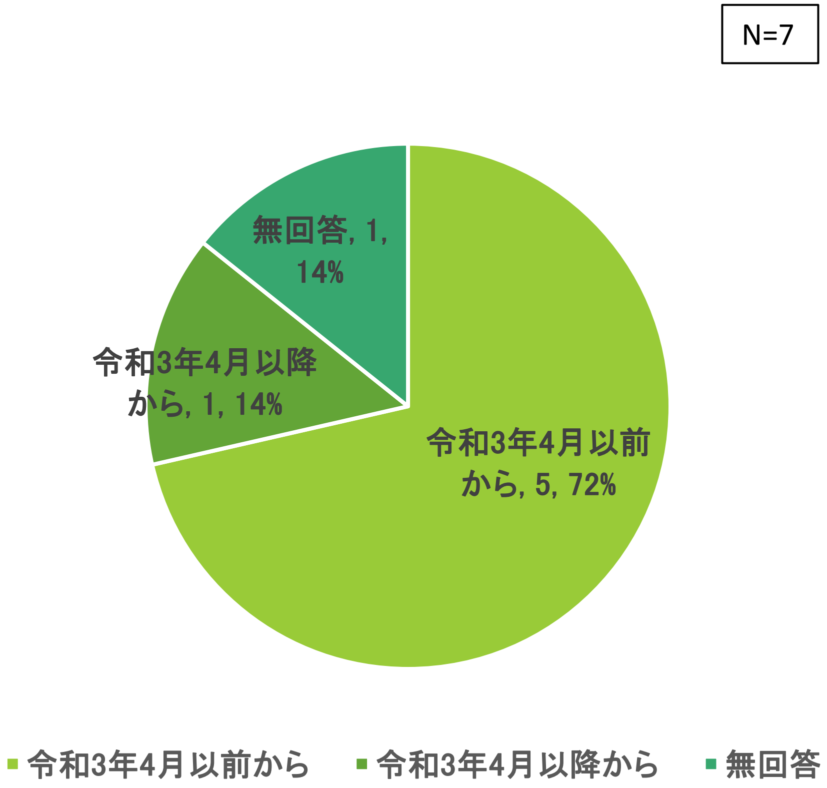
【調査目的】
おでかけ号の利用目的から、学習塾・習い事への交通手段としてのデマンド交通の実態を示す。
✓ 回答者197人に対して、学習塾・習い事による利用は3.6%である。

下野市デマンド交通（おでかけ号）の利用目的について

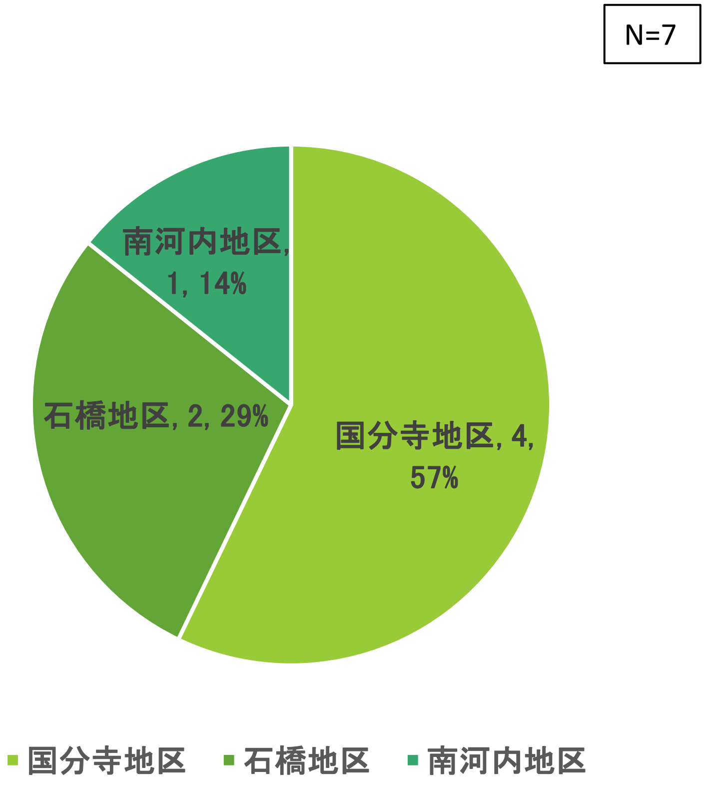


- ✓ 地区別としては、国分寺地区4件（57%）、石橋地区2件（29%）、南河内地区1件（14%）となった。
- ✓ 利用開始時期は、4月以前が5件（72%）、4月以降が1件（14%）であった。

塾や習い事目的利用者の利用開始時期



塾や習い事目的利用者の地区分布

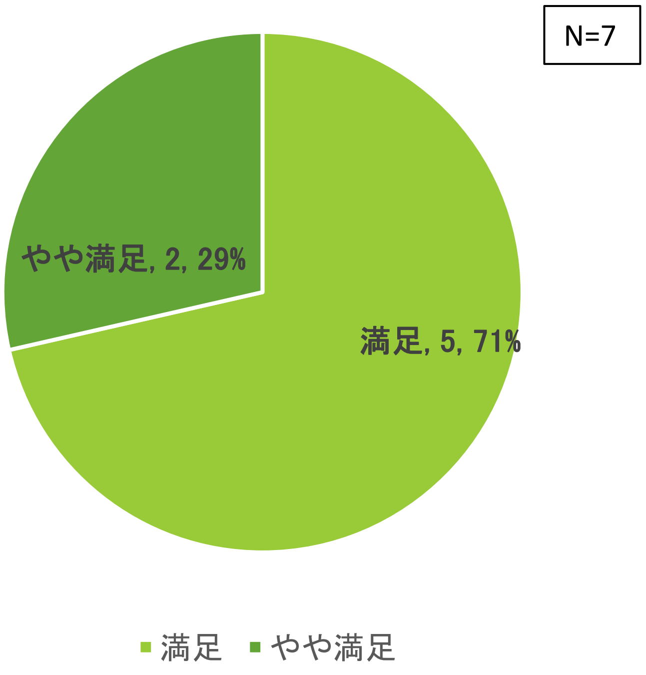
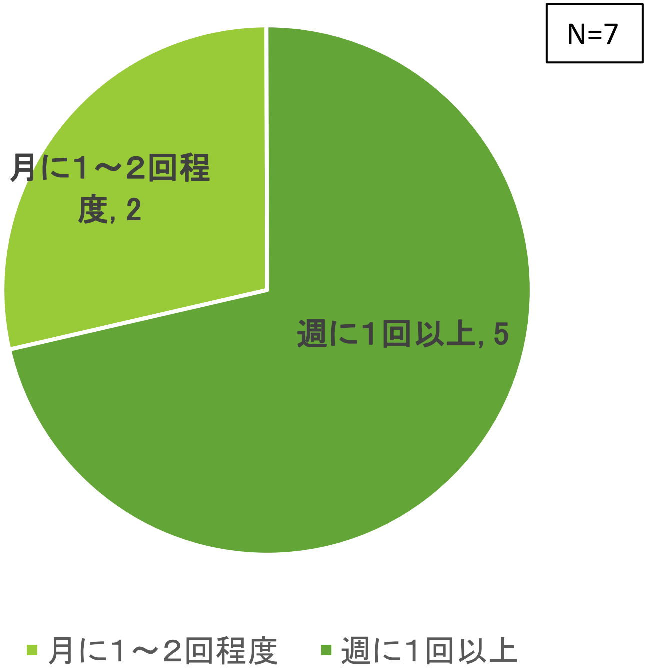


３．参考　～塾の送迎に関するデマンド交通（下野市）の利用について③～

新規

- ✓ 利用頻度としては、週に1回以上が5件（71%）、月に1～2回程度が2件（29%）となった。
- ✓ 運行時間に対する満足度としては、満足が5件（71%）、やや満足が2件（29%）となった。

塾や習い事目的お利用者の運行時間に対する満足度



塾や習い事目的利用者の利用頻度